



Sun™ Management Center 3.5 Starfire™ サーバーのための追補 マニュアル

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No. 817-2715-10
2003 年 8 月, Revision A

コメントの宛先: docfeedback@sun.com

Copyright 2003 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします)は、本書に記述されている製品に採用されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents>に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付属する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人 日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, AnswerBook2, docs.sun.com, Java, Sun Enterprise, Sun StorEdge A5000, Ultra, および Starfire は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK, OpenBoot, JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPENLOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

Use, duplication, or disclosure by the U.S. Government is subject to restrictions set forth in the Sun Microsystems, Inc. license agreements and as provided in DFARS 227.7202-1(a) and 227.7202-3(a) (1995), DFARS 252.227-7013(c)(1)(ii) (Oct. 1998), FAR 12.212(a) (1995), FAR 52.227-19, or FAR 52.227-14 (ALT III), as applicable.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典:	Sun Management Center 3.5 Supplement for Starfire Servers Part No: 816-7379-10 Revision A
-----	---



目次

はじめに	xv
お読みになる前に	xv
マニュアルの構成	xvi
UNIX コマンド	xvi
書体と記号について	xvii
シェルプロンプトについて	xviii
関連マニュアル	xviii
Sun のオンラインマニュアル	xviii
コメントをお寄せください	xix

1. 概要 1
2. Starfire システム用の Sun Management Center 3.5 ソフトウェアのインストール 3
 - Starfire システム用の追加コンポーネントパッケージ 4
 - Starfire システム用の Sun Management Center ソフトウェアのインストールの準備 5
 - Starfire システム用 Sun Management Center ソフトウェアのインストール先 6
 - Sun Management Center サーバーホストの選択 6
 - 必要な Sun Management Center のバージョン 7
 - 使用システム条件 8

- 対応するオペレーティング環境 8
- サポートされる SSP のバージョン 8
- SSP のメモリー条件 8
- 必要なパッチ 9
- ネットワークポートの設定条件 9
- SSP 構成リーダーのサポート 10
- Sun Management Center のインストールファイル 10
- Starfire システムに Sun Management Center 3.5 をインストールする際の注意事項 11
 - ▼ 遠隔 CD-ROM ドライブをマウントする 12
- Sun Management Center ソフトウェアのライセンス 12
- Sun Management Center 3.5 ソフトウェアのインストール 13
 - Starfire 用ソフトウェアのインストール順序 13
 - インストールに進む 14
 - Sun Management Center 3.5 のインストールウィザードによる Starfire 用追加ソフトウェアのインストール 15
- コマンド行インタフェース (CLI) によるソフトウェアのアンインストール 15
 - ▼ Sun Management Center ソフトウェア全体をアンインストールする 15
 - ▼ 追加モジュールを個別にアンインストールする 17
- 3. Starfire システム用の Sun Management Center 3.5 コンポーネントの設定 19
 - CLI による Starfire 用追加ソフトウェアのセットアップ 19
 - ▼ Starfire ドメイン用追加コンポーネントをセットアップする 20
 - ▼ Starfire プラットフォーム (SSP) 用追加コンポーネントをセットアップする 21
 - Sun Management Center 3.5 ソフトウェアのセットアップウィザードによる Starfire 用追加ソフトウェアのセットアップ 28
 - ▼ セットアップウィザードを使用して Starfire ドメイン用追加ソフトウェアをセットアップする 28
 - ▼ セットアップウィザードを使用して Starfire プラットフォーム用追加ソフトウェアをセットアップする 30

SSP snmpd プロセスの再起動	36
Starfire プラットフォーム用パッケージのセットアップ中の snmpd の再起動	36
Starfire プラットフォーム用パッケージ削除後の snmpd の再起動	36
snmpd の再起動に関する注意事項	36
snmpd の再起動方法	37
▼ snmpd を終了する	37
Starfire 用設定パラメタの再設定	38
▼ セットアップスクリプトを実行する	38
「エージェント更新」による複数ホストの更新	39
エージェント更新プロセスを起動する前に	39
▼ 更新対象のホスト上でエージェント更新用設定ファイルを作成する	40
エージェント更新プロセスの使用	40
エージェント更新でサポートされる構成	40
▼ Sun Management Center 3.5 追加ソフトウェアが存在する構成を更新する	40
▼ 追加ソフトウェアが存在しない、または Sun Management Center 3.0 Platform Update 4 追加ソフトウェアが存在する構成を更新する	44
CLI による Sun Management Center ソフトウェアの起動	45
▼ Starfire システムで Sun Management Center ソフトウェアを起動する	45
4. Starfire トポロジオブジェクト	47
Starfire プラットフォーム複合オブジェクト	47
▼ Starfire 複合オブジェクトを作成する	49
▼ Starfire 複合オブジェクトを検出する	49
Starfire プラットフォーム複合オブジェクトの更新	50
▼ 「トポロジオブジェクトの作成」で作成した Starfire 複合オブジェクトを更新する	51
▼ 検出マネージャーで作成した Starfire 複合オブジェクトを更新する	51
▼ 複合オブジェクトの作成に失敗した原因を究明する	52

- Starfire プラットフォームオブジェクト 53
 - ▼ Starfire プラットフォームオブジェクトを作成する 55

- 5. Starfire システムに関する詳細ウィンドウ 57
 - Starfire ドメインの詳細ウィンドウ 58
 - Starfire ドメインの資源構成 58
 - Starfire ドメインのデバイスとの対話 60
 - Starfire プラットフォームの詳細ウィンドウ 61
 - 完全なプラットフォーム構成の確認 62
 - Starfire プラットフォームの資源構成 63
 - Starfire の物理表示と論理表示 65
 - SSP の「詳細」ウィンドウ 66

- 6. Starfire 用エージェントモジュール 67
 - モジュール属性 67
 - Starfire ドメイン構成リーダーモジュール 68
 - モジュール再表示間隔 68
 - ▼ Starfire ドメイン構成リーダーのデータを再表示する 69
 - ▼ Starfire ドメイン構成リーダーの再表示間隔を変更する 69
 - Starfire ドメイン構成リーダーの属性 69
 - システム 70
 - Starfire プラットフォーム 71
 - システムボード 71
 - システムボードの ASIC の POST 状態 72
 - プロセッサモジュール 73
 - メモリーモジュール 74
 - メモリーグループ 74
 - DIMM テーブル 75
 - 入出力モジュール 75

入出力コントローラ	76
入出力アダプタ	77
入出力デバイスドライバ	77
テープデバイス	78
ネットワークデバイス	78
ディスクデバイス	79
Starfire プラットフォーム構成リーダーモジュール	79
モジュールの再表示	80
Starfire プラットフォーム構成リーダーの属性	80
システム	81
システムボード	82
システムボードの ASIC の POST 状態	83
プロセッサモジュール	83
メモリーモジュール	84
メモリーグループ	85
DIMM テーブル	85
入出力モジュール	85
入出力コントローラ	86
入出力アダプタ	86
センタープレーンボード	87
センタープレーンサポートボード	88
制御ボード	88
ファントレー	89
ファン	90
48 V 電源装置	90
AC 電源入力モジュール	91
入出力キャビネットテーブル	91
SSP 情報	91

Starfire ドメイン	92
エージェントの状態	93
検出オブジェクト	95
モデル再表示	96
SSP 状態モジュール属性	96
検出テーブルモジュール	97
Starfire 構成リーダーの規則	98
POST 状態の規則 (e10kpost)	98
プロセッサ状態規則 (e10kproc)	98
テープ警告規則 (e10ktwrn)	99
ディスク警告規則 (e10kdwrn)	99
メモリー ECC エラー規則 (e10kmerr)	100
Starfire ドメイントラップ規則 (e10kdtrp)	100
温度規則 (e10ktemp)	101
電源規則 (e10kpowr)	101
電圧規則 (e10kvolt)	102
比較規則 (rCompare)	103
構成リーダーの規則しきい値の変更	103
▼ 規則パラメタを編集する	103
デフォルトの規則しきい値の変更	104
Starfire ドメイン構成リーダーモジュールの alarmlimit 変数	105
Starfire プラットフォーム構成リーダーモジュールの alarmlimit 変数	105
▼ デフォルトの規則しきい値を変更する	106
Sun Management Center のログファイル	107

目次

- 図 3-1 デフォルトのプラットフォーム名のパネル 29
- 図 3-2 snmpd の再起動パネル 31
- 図 3-3 エージェントポートの入力のパネル 32
- 図 3-4 セキュリティーキーの生成のパネル 33
- 図 3-5 予備 SSP のパネル 34
- 図 3-6 ドメインポートの確認のパネル 35
- 図 3-7 「ジョブの管理」パネル 41
- 図 3-8 「新しいタスク」パネル 42
- 図 4-1 Starfire 複合オブジェクトとそこに含まれるオブジェクト 48
- 図 4-2 メインおよび予備の Starfire プラットフォームと SSP のアイコン 54
- 図 5-1 Starfire ドメイン情報とハードウェア資源の概要 59
- 図 5-2 Starfire プラットフォーム情報とハードウェア資源の概要 63
- 図 5-3 Starfire ドメインと Starfire プラットフォームの物理表示 65
- 図 5-4 疑問符インジケータの付いた不明なモジュール 66

表目次

表 2-1	Starfire サーバー用の Sun Management Center 追加パッケージ	4
表 2-2	Starfire 用追加ソフトウェアに必要な最小ディスク容量	8
表 2-3	Sun Management Center のデフォルトのポートアドレス	9
表 2-4	Starfire プラットフォームホストとインストールする階層の関係	13
表 3-1	Starfire 用コンポーネントと停止用のコマンド	38
表 5-1	Sun Management Center エージェントモジュール	57
表 5-2	「Starfire ドメイン情報」の属性	59
表 5-3	Starfire ドメインのハードウェア資源	60
表 5-4	「Starfire プラットフォーム情報」の属性	64
表 5-5	Starfire プラットフォームのハードウェア資源	64
表 6-1	Starfire ドメイン構成リーダーのシステム属性	70
表 6-2	Starfire ドメイン構成リーダーの Starfire プラットフォーム属性	71
表 6-3	Starfire ドメイン構成リーダーのシステムボード属性	71
表 6-4	Starfire ドメイン構成リーダーのシステムボードの ASIC の POST 状態属性	72
表 6-5	Starfire ドメイン構成リーダーのプロセッサモジュール属性	73
表 6-6	Starfire ドメイン構成リーダーのメモリーモジュール属性	74
表 6-7	Starfire ドメイン構成リーダーのメモリーグループ属性	74
表 6-8	Starfire ドメイン構成リーダーの DIMM テーブル属性	75
表 6-9	Starfire ドメイン構成リーダーの入出力モジュール属性	75
表 6-10	Starfire ドメイン構成リーダーの入出力コントローラ属性	76

表 6-11	Starfire ドメイン構成リーダーの入出力アダプタ属性	77
表 6-12	Starfire ドメイン構成リーダーの入出力デバイスドライバ属性	77
表 6-13	Starfire ドメイン構成リーダーのテープデバイス属性	78
表 6-14	Starfire ドメイン構成リーダーのネットワークデバイス属性	78
表 6-15	Starfire ドメイン構成リーダーのディスクデバイス属性	79
表 6-16	Starfire プラットフォーム構成リーダーのシステム属性	81
表 6-17	Starfire プラットフォーム構成リーダーのシステムボード属性	82
表 6-18	Starfire プラットフォーム構成リーダーのプロセッサモジュール属性	83
表 6-19	Starfire プラットフォーム構成リーダーのメモリーモジュール属性	85
表 6-20	Starfire プラットフォーム構成リーダーの入出力モジュール属性	86
表 6-21	Starfire プラットフォーム構成リーダーのセンタープレーンボード属性	87
表 6-22	Starfire プラットフォーム構成リーダーのセンタープレーンサポートボード属性	88
表 6-23	Starfire プラットフォーム構成リーダーの制御ボード属性	88
表 6-24	Starfire プラットフォーム構成リーダーのファントレー属性	89
表 6-25	Starfire プラットフォーム構成リーダーのファン属性	90
表 6-26	Starfire プラットフォーム構成リーダーの電源装置属性	90
表 6-27	Starfire プラットフォーム構成リーダーの AC 電源入力モジュール属性	91
表 6-28	Starfire プラットフォーム構成リーダーの入出力キャビネットテーブル属性	91
表 6-29	Starfire プラットフォーム構成リーダーの SSP 情報属性	92
表 6-30	Starfire プラットフォーム構成リーダーの Starfire ドメイン属性	93
表 6-31	Starfire プラットフォーム構成リーダーの Starfire ドメインポート属性	94
表 6-32	エージェント状態テーブルの属性	94
表 6-33	状態属性の値	95
表 6-34	Starfire プラットフォーム構成リーダーの 検出オブジェクトテーブル属性	95
表 6-35	Starfire プラットフォーム構成リーダーのモデル再表示属性	96
表 6-36	SSP 状態モジュール属性	97
表 6-37	検出テーブル	97
表 6-38	POST 状態規則	98
表 6-39	テープ警告規則のしきい値	99

表 6-40	ディスク警告規則のしきい値	99
表 6-41	メモリー ECC エラー規則のしきい値	100
表 6-42	温度規則のレベル (摂氏)	101
表 6-43	電源規則のしきい値	101
表 6-44	システムボードに対する電圧規則のレベル	102
表 6-45	制御ボードに対する電圧規則のレベル	102
表 6-46	センタープレーンサポートボードに対する電圧規則のレベル	102
表 6-47	Starfire ドメイン構成リーダーモジュールの <code>alarmlimit</code> 変数	105
表 6-48	Starfire ドメイン構成リーダーモジュールの <code>alarmlimit</code> 変数	105
表 6-49	Starfire プラットフォーム構成リーダーモジュールの <code>rCompare alarmlimit</code> 変数	106
表 6-50	Sun Management Center エージェントを停止、再起動するためのコマンド	107
表 6-51	Sun Management Center のログファイル	107

はじめに

このマニュアルでは、Sun Enterprise™ 10000 (Starfire™) システムに Sun™ Management Center ソフトウェアをインストールしてセットアップする方法と、その使用方法を説明します。

このマニュアルは、Sun Management Center ソフトウェアのインストールと運用を担当して、Starfire システムを監視する Starfire システムの管理者を対象に記述されています。

Starfire システム用の Sun Management Center 3.5 ソフトウェアおよびマニュアルには、フランス語、日本語、韓国語、簡体字中国語、繁体字中国語版があります。ただし、このマニュアルの画面例はすべて英語で表記されています。

注 – ウィンドウに当該言語のすべてのテキストが表示されていない場合は、ウィンドウのサイズを変更してください。

お読みになる前に

このマニュアルは、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』および『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』の後にお読みください。『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』では、Sun Management Center 3.5 ソフトウェアのインストールおよび設定方法、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』では、Sun Management Center の使用方法をそれぞれ説明しています。

注 – Sun Management Center の製品の最新情報については、Sun Management Center Web サイト (<http://www.sun.com/sunmanagementcenter>) をご覧ください。

マニュアルの構成

第 1 章では、Starfire プラットフォーム用の Sun Management Center の概要を説明します。

第 2 章では、Starfire サーバーに Sun Management Center ソフトウェアをインストールする方法を説明します。『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』と併せてお読みください。

第 3 章では、Starfire システム用の追加ソフトウェアコンポーネントの設定方法を説明します。『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』と併せてお読みください。

第 4 章では、Starfire システムのトポロジオブジェクトの作成、変更、検出方法を説明します。

第 5 章は、「詳細」ウィンドウに表示される、Starfire システムに固有のドメインおよびプラットフォームデータについて説明します。

第 6 章では、Starfire サーバー用の追加コンポーネントの Sun Management Center ソフトウェアモジュールの各属性を簡単に説明します。また、Starfire ドメイン構成リーダーおよび Starfire プラットフォーム構成リーダーの、規則のしきい値を変更する方法も説明します。

今回のリリースに含まれているオープンソースソフトウェアのライセンス条件と帰属、著作権情報については、以下のパスのファイルを参照してください。

```
/cdrom/sunmc_3_5_sparc/image/Webserver/Solaris_9/SUNWtcatr \
/install/copyright
```

Solaris 8 ソフトウェアを使用している場合は、このパスの Solaris_9 の部分を Solaris_8 に置き換えてください。

UNIX コマンド

このマニュアルには、UNIX[®] の基本的なコマンド、およびシステムの停止、システムの起動、デバイスの構成などの基本的な手順の説明は記載されていません。

基本的なコマンドや手順についての説明は、次のマニュアルを参照してください。

- 『Sun 周辺機器 使用の手引き』
- Solaris[™] オペレーティング環境についてのオンラインマニュアル
- 本システムに付属している他のソフトウェアマニュアル

書体と記号について

書体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例。	<pre>.login ファイルを編集します。 ls -a を実行します。 % You have mail.</pre>
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して表します。	<pre>マシン名% su Password:</pre>
<i>AaBbCc123</i> またはゴシック	コマンド行の可変部分。実際の名前や値と置き換えてください。	<pre>rm <i>filename</i> と入力します。 rm ファイル名 と入力します。</pre>
『』	参照する書名を示します。	『Solaris ユーザーマニュアル』
「」	参照する章、節、または、強調する語を示します。	第 6 章「データの管理」を参照。 この操作ができるのは「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅をこえる場合に、継続を示します。	<pre>% grep `^#define \ XV_VERSION_STRING`</pre>

シェルプロンプトについて

シェル	プロンプト
UNIX の C シェル	マシン名%
UNIX の Bourne シェルと Korn シェル	\$
スーパーユーザー (シェルの種類を問わない)	#

関連マニュアル

用途	タイトル	Part No.
インストール方法	Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド	817-3019
使用方法	Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド	817-3024
注意事項、制限事項、バグ	Sun Management Center 3.5 ソフトウェアご使用にあたって	817-3049
使用方法	Sun Management Center 3.5 VSP High-End Entry サーバー (ワークグループサーバー) のための追補マニュアル	817-2931
使用方法	Sun Management Center 3.5 ワークステーションのための追補マニュアル	817-2893
使用方法	Sun Management Center 3.5 Netra サーバーのための追補マニュアル	817-3126

Sun のオンラインマニュアル

サンの各種システムマニュアルは下記 URL より参照できます。

<http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs>

Solaris およびその他のマニュアルは下記 URL より参照できます。

<http://docs.sun.com>

コメントをお寄せください

弊社では、マニュアルの改善に努力しており、お客様からのコメントおよびご忠告をお受けしております。コメントは下記宛に電子メールでお送りください。

docfeedback@sun.com

電子メールの表題にはマニュアルの Part No. (817-2715-10) を記載してください。

なお、現在日本語によるコメントには対応できませんので、英語で記述してください。

第1章

概要

Sun Management Center 3.5 ソフトウェアは、Java™ ソフトウェアプロトコルと SNMP (Simple Network Management Protocol) を使用して、サンの製品とそのサブシステム、コンポーネント、周辺装置の統合および総合的な大規模の管理機能を提供する、拡張可能な開かれたシステム監視および管理アプリケーションです。

Starfire ハードウェア構成情報は SSP (System Service Processor) と各 Starfire プラットフォームドメインの両方に常駐します。Sun Starfire ドメインホストは、その他のあらゆる Solaris オペレーティング環境ホストと同様に動作するため、これらの Sun Management Center サービスを利用できます。

ハードウェアの構成情報は、Sun Management Center のプラットフォーム固有の構成リーダーモジュールによって提供され、Sun Management Center の「詳細」ウィンドウに物理および論理表示されます。Starfire ドメインおよびプラットフォームにおけるこうした構成リーダーのサポートは、Starfire 用の追加コンポーネントによって実現されます。

Sun Management Center のアーキテクチャーについては、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』の第1章に詳細な説明と図があります。コンソール、サーバー、エージェント、ドメイン、モジュールの対話方法について不明な点がある場合は、この章を参照してください。

注 – Starfire サーバー用 Sun Management Center 3.5 ソフトウェアの目的は、hostview の代役を果たすことではありません。その第1の目的は、システムコンポーネントを管理することではなく、監視することにあります。

注 – 今回のリリースの Sun Management Center ソフトウェアでは、Starfire の動的再構成 (DR: Dynamic Reconfiguration) はサポートされません。

第2章

Starfire システム用の Sun Management Center 3.5 ソフトウェアのインストール

この章では、Starfire サーバーに Sun Management Center ソフトウェアをインストールする方法を説明します。『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』と併せてお読みください。

Sun Management Center ソフトウェアは、Sun Management Center のインフラストラクチャと基本サポート機能を提供する主要パッケージと、特定のハードウェアプラットフォームやオプションのサポート機能を提供する追加コンポーネントから構成されます。

Starfire をサポートするには、主要パッケージに加えて Starfire 用の追加パッケージが必要です。これらはともに、この章で説明する Sun Management Center ソフトウェアのインストール手順でインストールします。Sun Management Center ソフトウェアのインストールを終えたら、第3章で説明している Sun Management Center ソフトウェアの設定に進んでください。



注意 – Sun Management Center 3.5 ソフトウェアに付属しているインストールおよびセットアップスクリプトを使用してください。パッケージを手動で追加したり、構成ファイルを手動で変更したりしないでください。

Sun Management Center 3.5 のインストールスクリプト、セットアップスクリプト、グラフィカルユーザーインターフェース (GUI) のパネルによって表示されるメッセージの内容および順番が、この章で示す例と異なることがあります。それらの例は、実際に表示されるメッセージのおおよその内容と順番を示すためのものです。実際のインストールスクリプトとセットアップスクリプトは、インストールする追加コンポーネントやその他の選択オプションによって異なります。

Starfire システム用の追加コンポーネントパッケージ

Starfire 用の追加ソフトウェアには、Sun Management Center ソフトウェアで Starfire プラットフォームをサポートするための、表 2-1 に示すパッケージが含まれています。

表 2-1 Starfire サーバー用の Sun Management Center 追加パッケージ

パッケージ	説明
SUNWessfd	Starfire サーバー用の Sun Management Center ドメインエージェントサポート。Starfire ドメインのハードウェア構成の監視に必要なライブラリと構成ファイルが含まれています。
SUNWessfp	Starfire サーバー用の Sun Management Center SSP エージェントサポート。Starfire プラットフォーム全体のハードウェア構成の監視に必要なライブラリと構成ファイルが含まれています。
SUNWessfs	Starfire プラットフォーム用の Sun Enterprise Starfire サーバーサポート。Sun Management Center が Starfire プラットフォームを物理表示するために必要なファイルが含まれています。
SUNWessfg	Starfire サーバー用の Sun Management Center 共通サポート。マスターの設定およびアンインストールスクリプトが含まれています。
SUNWensfi	Starfire サーバー用の Sun Management Center の英語のメッセージファイル
SUNWcesfd	簡体字中国語の Sun Management Center の Starfire ドメインエージェントサポート
SUNWcesfp	簡体字中国語の Sun Management Center の Starfire SSP エージェントサポート
SUNWcessf	簡体字中国語の Sun Management Center の Starfire 共通サポート
SUNWcesss	簡体字中国語の Sun Management Center の Starfire サーバーサポート
SUNWfesfd	フランス語の Sun Management Center の Starfire ドメインエージェントサポート
SUNWfesfp	フランス語の Sun Management Center の Starfire SSP エージェントサポート
SUNWfessf	フランス語の Sun Management Center の Starfire 共通サポート
SUNWfesss	フランス語の Sun Management Center の Starfire サーバーサポート
SUNWhesfd	繁体字中国語の Sun Management Center の Starfire ドメインエージェントサポート

表 2-1 Starfire サーバー用の Sun Management Center 追加パッケージ (続き)

パッケージ	説明
SUNWhesfp	繁体字中国語の Sun Management Center の Starfire SSP エージェントサポート
SUNWhessf	繁体字中国語の Sun Management Center の Starfire 共通サポート
SUNWhesss	繁体字中国語の Sun Management Center の Starfire サーバーサポート
SUNWjesfd	日本語の Sun Management Center の Starfire ドメインエージェントサポート
SUNWjesfp	日本語の Sun Management Center の Starfire SSP エージェントサポート
SUNWjessf	日本語の Sun Management Center の Starfire 共通サポート
SUNWjesss	日本語の Sun Management Center の Starfire サーバーサポート
SUNWkesfd	韓国語の Sun Management Center の Starfire ドメインエージェントサポート
SUNWkesfp	韓国語の Sun Management Center の Starfire SSP エージェントサポート
SUNWkessf	韓国語の Sun Management Center の Starfire 共通サポート
SUNWkesss	韓国語の Sun Management Center の Starfire サーバーサポート

注 – これらのパッケージは pkgadd を使用してインストールしないでください。インストールスクリプトを使用してください。

Starfire システム用の Sun Management Center ソフトウェアのインストールの準備

Starfire サーバーに Sun Management Center 3.5 ソフトウェアをインストールするには、Starfire システムがいくつかの条件を満たしている必要があります。以下の項では、これらの作業を行う要件を説明します。

Starfire システム用 Sun Management Center ソフトウェアのインストール先

Starfire のサポート機能を使用するには、Sun Management Center ソフトウェアを多数のホストにインストールする必要があります。Sun Management Center のコンポーネントは、次の場所にインストールする必要があります。

- Sun Management Center サーバーホスト
- Starfire プラットフォーム用の SSP
- 予備 SSP (設定している場合)
- 監視するすべての Starfire ドメイン

メインおよび予備の SSP についての詳細は、53 ページの「Starfire プラットフォームオブジェクト」を参照してください。

Sun Management Center のコンソールソフトウェアは、ネットワーク上の 1 つのホストにインストールする必要があります。Starfire 専用のコンソール階層用の追加コンポーネントはありません。

Sun Management Center のオンラインヘルプは、Sun Management Center ヘルプサーバーにインストールし、ネットワークから Web ブラウザを使って表示できます。Starfire 専用のヘルプサーバー用追加コンポーネントはありませんが、オンライン Sun Management Center ヘルプサーバーのインストール先は、ユーザー自身が決める必要があります。詳細は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』の「Sun Management Center のオンラインヘルプ」を参照してください。



注意 – Starfire の SSP には、Sun Management Center のエージェント階層だけをインストールしてください。Sun Management Center のコンソール階層およびサーバー階層は SSP にインストールしないでください。SSP の資源は、Starfire プラットフォームの管理専用です。SSP でその他の機能を実行すると、SSP ソフトウェアが正しく動作しないことがあります。

注 – 完全な監視機能が必要な場合は、すべての Starfire ドメインに Sun Management Center ソフトウェアをインストールしてください (任意)。

Sun Management Center サーバーホストの選択

Sun Management Center ソフトウェアをインストールする前に、ネットワークで Sun Management Center サーバーホストにするホストを決定します。このホストには、高可用性のシステムを選択してください。Sun Management Center サーバーが

停止すると、Sun Management Center ソフトウェアによるシステム管理が不可能になります。サーバーホストの要件についての詳細は、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』を参照してください。

Starfire ドメインには、Sun Management Center のどの階層 (コンソール、サーバー、エージェント) でも配置できます。しかし、すべてのドメインが停止しても Starfire プラットフォームを管理できるようにする場合は、Starfire プラットフォームドメインに Sun Management Center のサーバー階層を配置しないでください。

Starfire ドメインのハードウェア構成をよりタイムリーにプラットフォーム監視するには、SSP と Starfire ドメインの Sun Management Center エージェントが同じ Sun Management Center サーバーを使用するように構成します。

必要な Sun Management Center のバージョン

Sun Management Center 3.5 の Starfire コンポーネントは Sun Management Center 3.5 とともにインストールして、使用する必要があります。

詳細は、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の「旧バージョンとの互換性」を参照してください。

Sun Management Center 3.5 サーバーは、Sun Management Center 3.0 エージェントを監視できます。Starfire システムの構成要素上の Sun Management Center ソフトウェアをバージョン 3.0 から 3.5 にアップグレードする場合は、すべての構成要素を 3.5 にアップグレードしてください。Starfire システムの構成要素には以下があります。

- Starfire ドメイン
- Starfire の SSP
- Starfire の予備 SSP

使用システム条件

Sun Management Center を使用する際に必要となる、ディスクの最小容量などの条件については、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』を参照してください。表 2-2 は、Sun Management Center の Starfire サーバー用追加コンポーネントに必要な追加ディスク容量をまとめています。

表 2-2 Starfire 用追加ソフトウェアに必要な最小ディスク容量

階層	最小ディスク容量 (M バイト単位)
Starfire ドメインエージェント	0.5
Starfire プラットフォーム (SSP) エージェント	0.7
Sun Management Center サーバー Starfire サポート	0.5

対応するオペレーティング環境

Sun Management Center 3.5 ソフトウェアをインストールする各システムに使用されている Solaris オペレーティング環境のバージョンを調べる必要があります。Sun Management Center の Starfire サーバー用追加コンポーネントは、以下の Solaris オペレーティング環境に対応しています。

- Solaris 8 オペレーティング環境 (32 ビットおよび 64 ビットモード)
- Solaris 9 オペレーティング環境 (32 ビットおよび 64 ビットモード)

サポートされる SSP のバージョン

Sun Management Center ソフトウェアの Starfire サーバー用追加コンポーネントを使用するには、SSP ソフトウェアのバージョン 3.5 以降が必要です。SSP では、対応するオペレーティング環境のどれでも使用することができます。

SSP のメモリー条件

SSP には、最低 128M バイトのメモリーが必要です。

必要なパッチ

Solaris 2.6 オペレーティング環境が動作する Starfire ドメインで Sun Management Center ソフトウェアを使用するには、Solaris ソフトウェアパッチが必要です。Sun Management Center の全般的なパッチ情報については、『Sun Management Center 3.5 ソフトウェアご使用にあたって』の「必要なパッチ」を参照してください。パッチの依存関係または前提条件については、そのパッチに関する README ファイルを参照してください。

ネットワークポートの設定条件

Sun Management Center ソフトウェアは、ネットワークポートを介して、システムのさまざまなコンポーネントと通信します。各コンポーネントのデフォルトのポートアドレスは、表 2-3 に示すとおりです。

表 2-3 Sun Management Center のデフォルトのポートアドレス

階層	構成要素	デフォルトのポート番号
エージェント	エージェント	161
サーバー	トラップハンドラ	162
サーバー	イベントマネージャー	163
サーバー	トポロジマネージャー	164
サーバー	構成マネージャー	165
サーバー	サーバー	2099
エージェント	プラットフォームエージェント	166

このデフォルトのポート設定が、システムですでに動作中のソフトウェアと衝突することがあります。たとえば Starfire SSP では、つねにポート 161 で衝突が発生します。これは、SSP の snmpd エージェントまたは Solaris ソフトウェアの snmpdx エージェントがこのポートを使用するためです。一部の Starfire ドメインでも、従来の SMNP エージェントがあるためにポート 161 で衝突の発生することがあります。このような衝突を回避するには、Sun Management Center ソフトウェアの設定で別のネットワークポートを指定します。使用されているポートを調べる方法については、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』を参照してください。

トポロジオブジェクトの作成、アクセスの際、デフォルトでは Sun Management Center ソフトウェアはポート 161 を使用します。エージェントが代替ポートを使用するように設定するには、トポロジオブジェクトが作成または検出されたときに、そのポートを指定する必要があります。Sun Management Center のネットワーク構成

と管理を簡略化し、Sun Management Center エージェントをより効率的に検出できるようにするには、デフォルトのポート設定を使用できないすべてのエージェントのインストール先について、代替ポート番号を選択して、その番号を使用します。

Starfire SSP には、エージェントとプラットフォームエージェントの 2 種類の Sun Management Center エージェントがあります。エージェントは SSP に関する情報を提供し、プラットフォームエージェントは Starfire プラットフォームに関する情報を提供します。通常、プラットフォームエージェント用のデフォルトのポート設定で、ポートの衝突が発生することはありません。プラットフォームトポロジオブジェクトが作成または検出されると、デフォルトで正しいポートが提供されるため、ユーザーがポートを指定する必要はありません。

SSP 構成リーダーのサポート

Sun Management Center ソフトウェアのワークステーション用追加コンポーネントをインストールして、適切に設定することによって、構成リーダーでいくつかの SSP Sun Ultra™ ワークステーションアーキテクチャーを追加サポートできます。サポートされるワークステーション一覧は、『Sun Management Center 3.5 ワークステーションのための追補マニュアル』を参照してください。

注 - ワークステーション用の追加コンポーネントは、Sun SPARCstation™ ワークステーションアーキテクチャーをサポートしていません。SPARCstation ワークステーションに Sun Management Center ソフトウェアをインストールすることはできますが、SSP のハードウェア構成情報は提供されません。

Sun Management Center 3.5 ソフトウェアのインストールおよびセットアップで、ワークステーション用の追加コンポーネントをインストールすることができます。CD-ROM から主要ソフトウェアをインストールした場合は、同時にワークステーション用の追加コンポーネントもインストールされます。Web から主要ソフトウェアをインストールした場合は、必要なワークステーションイメージをダウンロードして、インストールする必要があります。

Sun Management Center のインストールファイル

Sun Management Center 3.5 CD-ROM には、Starfire サーバーに Sun Management Center ソフトウェアをインストールするために必要なすべてのファイルが収録されています。このソフトウェアは、以下の Sun Management Center Web サイトからも入手できます。

<http://www.sun.com/sunmanagementcenter>

Web サイトから入手する場合は、必ず以下をダウンロードしてください。

- Sun Management Center の主要パッケージ
- Starfire 用の追加コンポーネント
- SSP デスクトップ用の追加コンポーネント (任意)
- マニュアル

Web から Sun Management Center ソフトウェアをダウンロードするときは、サポートする Solaris オペレーティング環境のリリースを選択する必要があります。オペレーティング環境のリリースごとに、ダウンロードするイメージセットは異なります。このため、Starfire の構成内で複数のリリースのオペレーティング環境を使用している場合は、ソフトウェアコンポーネントごとに複数のバージョンのイメージセットをダウンロードする必要があります。

必要なコンポーネントをすべてダウンロードしたら、それらのファイルを 1 つのディレクトリに抽出してください。必要な Sun Management Center ソフトウェアコンポーネントがすべて入ったインストールディレクトリが作成されて、1 つのコマンドで Sun Management Center の主要ソフトウェアと Starfire 用追加コンポーネント、デスクトップ用追加コンポーネント (任意) をインストールできるようになります。

ファイルのダウンロードおよび抽出についての詳細は、Sun Management Center の Web サイトからダウンロード可能な各インストールパッケージに付属している README ファイルを参照してください。

<http://www.sun.com/sunmanagementcenter>

Starfire システムに Sun Management Center 3.5 をインストールする際の注意事項

Sun Management Center 3.5 ソフトウェアのインストールおよび設定方法の詳細は、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』に記載されています。Starfire ホストには、ローカル CD-ROM ドライブがありません。このため Starfire 構成で CD-ROM から Starfire ドメインに Sun Management Center ソフトウェアをインストールする場合は、遠隔 CD-ROM ドライブをマウントする必要があることに注意してください。この手順については、12 ページの「遠隔 CD-ROM ドライブをマウントする」を参照してください。

▼ 遠隔 CD-ROM ドライブをマウントする

Starfire ドメインにはローカルの CD-ROM ドライブがありませんが、SSP にはローカルの CD-ROM ドライブがあります。このため、CD-ROM からインストールする場合は、SSP の CD-ROM ドライブを遠隔マウントする必要があります。

1. スーパーユーザーで SSP にログインします。
2. SSP の CD-ROM ドライブに Sun Management Center 3.5 CD を挿入します。
3. SSP 上で `share(1M)` コマンドを入力し、ネットワークから CD-ROM を利用できるようにします。

```
ssp# share -o ro,anon=0 -F nfs /cdrom/sun_management_center_3_5
```

4. スーパーユーザーで Starfire ドメインにログインします。
5. CD-ROM をマウントするローカルディレクトリを作成します。

```
# mkdir /cdrom
```

6. 前の手順で作成した `/cdrom` に、SSP の `/cdrom` ディレクトリをマウントします。

```
# mount SSPのホスト名:/cdrom/sun_management_center_3_5/cdrom
```

7. Sun Management Center ソフトウェアのインストールディレクトリに移動します。

```
# cd /cdrom/sun_management_center_3_5
```

Sun Management Center ソフトウェア のライセンス

Sun Management Center 3.5 ソフトウェアが Starfire サーバーをサポートするために必要な機能は、3.5 に含まれている基本機能だけです。この基本機能を使用するために、ライセンスは必要ありません。

Sun Management Center 3.5 ソフトウェアのインストール

Starfire をサポートするには、次の Sun Management Center ソフトウェアを、Starfire プラットフォームホストにインストールします。

表 2-4 Starfire プラットフォームホストとインストールする階層の関係

ホスト	階層	インストールする階層
Sun Management Center サーバーホスト	サーバー	主要 Sun Management Center サーバー階層と、Sun Management Center サーバーに対する Starfire サーバー用追加コンポーネント
Starfire ドメイン	エージェント	主要 Sun Management Center エージェント階層と、Starfire ドメイン用追加コンポーネント
メイン SSP	エージェント	主要 Sun Management Center エージェント階層と、Starfire プラットフォーム用追加コンポーネント。予備 SSP に、その他の Sun Management Center 階層をインストールしないでください。
予備 SSP (設定している場合)	エージェント	主要 Sun Management Center エージェント階層と、Starfire プラットフォーム用追加コンポーネント。予備 SSP に、その他の Sun Management Center 階層をインストールしないでください。

注 – Starfire ドメインホストには、Sun Management Center のエージェント階層以外の Sun Management Center 階層もインストールできます。詳細は、6 ページの「Sun Management Center サーバーホストの選択」を参照してください。

さらに『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』で解説しているように、ネットワーク上のいずれかの場所に Sun Management Center のコンソールおよびオンラインヘルプもインストールする必要があります。

Starfire 用ソフトウェアのインストール順序

最良の結果を得るには、次に示すホスト順に Sun Management Center ソフトウェアをインストールしてください。

1. Sun Management Center サーバーホスト
2. Starfire ドメイン
3. メイン SSP
4. 予備 SSP (設定している場合)
5. Sun Management Center コンソールホスト
6. Sun Management Center のオンラインヘルプ (Sun Management Center コンソールホストにインストールしなかった場合)

インストールに進む

これで、主要 Sun Management Center ソフトウェアのインストール準備は完了です。『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の説明に従ってインストール作業を行ってください。インストールする Sun Management Center コンポーネントを選択してから、必要な Sun Management Center ソフトウェアおよび Starfire 用追加コンポーネントをホストにインストールします。

次のことを忘れないでください。

- 13 ページの「Starfire 用ソフトウェアのインストール順序」に示すホスト順に Sun Management Center ソフトウェアをインストールしてください。
- Sun Management Center の階層は、表 2-4 の説明に従ってインストールしてください。

Starfire 用追加コンポーネントのインストールが完了すると、セットアップに関する確認メッセージが表示されます。

```
Do you want to run setup now? [y|n|q]
```

Sun Management Center ソフトウェアを設定するには、**y** (はい) を入力して、19 ページの「Starfire システム用の Sun Management Center 3.5 コンポーネントの設定」に進んでください。

Sun Management Center 3.5 のインストールウィザードによる Starfire 用追加ソフトウェアのインストール

ソフトウェア全体のインストール方法の詳細は、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の第 6 章「Sun Management Center 3.5 のインストールと設定」を参照してください。以下はインストール手順の概略です。

1. 『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の第 6 章「Sun Management Center 3.5 のインストールと設定」で説明しているように、スーパーユーザーで `es-guiinst` スクリプトを実行します。
2. 主要ソフトウェアをインストールすると、選択してインストールすることが可能な追加製品の一覧からなる「アドオン製品の選択」画面が表示されます。Starfire システムに適用するアドオン製品を選択して、「次へ」をクリックします。
3. すべてのソフトウェアをインストールすると、Sun Management Center の設定ウィザードが自動的に起動します。

コマンド行インタフェース (CLI) によるソフトウェアのアンインストール

CLI を使用して以下をアンインストールすることができます。

- Sun Management Center ソフトウェア全体 (15 ページの「Sun Management Center ソフトウェア全体をアンインストールする」を参照)
- Starfire 用の 3 つある追加ソフトウェアモジュールのうちの 1 つか 2 つ、またはすべて (17 ページの「追加モジュールを個別にアンインストールする」を参照)

▼ Sun Management Center ソフトウェア全体をアンインストールする

1. スーパーユーザーで以下を入力します。

```
# ./es-uninst
```

以下のメッセージが表示されます。

```
This script will help you to uninstall the Sun Management Center software.
```

```
Following Sun Management Center Products are installed:
```

```
-----  
PRODUCT                                DEPENDENT PRODUCTS  
-----
```

```
Production Environment                All Addons  
Starfire Monitoring                   None
```

```
Do you want to uninstall Production Environment? [y|n|q]
```

2. 製品環境をアンインストールしてもよい場合は **y** を入力します。これで、Sun Management Center ソフトウェア全体がアンインストールされます。

以下のメッセージが表示されます。

```
This will uninstall ALL Sun Management Center Products. !!!
```

```
Do you want to change selection? [y|n|q]
```

3. 以下のいずれかの操作をします。

- 選択内容を変更する場合は、**y** を入力します。
選択内容が表示され、手順 2 の先頭に戻ります。
- 選択内容を変更しない場合は、**y** を入力します。
以下のメッセージが表示されます。

```
Do you want to preserve database? [y|n|q]
```

注 - **y** (yes) と応答すると、開および閉状態のアラーム、読み込み済みのモジュールとその設定、検出情報、管理対象オブジェクト、規則しきい値などの、データベース内のあらゆるデータが残されます。

4. 現在のトポロジやイベントデータを残す場合は **y**、廃棄する場合は **n** を入力します。
以下のメッセージが表示されます。

```
Proceed with uninstall? [y|n|q]
```

5. アンインストールしてもよい場合は `y`、そうでない場合は `n` を入力します。

`y` を入力した場合は、アンインストールするパッケージの一覧が表示され、アンインストールされたパッケージ、アンインストール状況、ログファイルの場所が表示されます。

▼ 追加モジュールを個別にアンインストールする

1. スーパーユーザーで以下を入力します。

```
# ./es-uninst
```

以下のメッセージが表示されます。

```
This script will help you to uninstall the Sun Management Center software.
```

```
Following Sun Management Center Products are installed:
```

```
-----
```

```
PRODUCT                                DEPENDENT PRODUCTS
```

```
-----
```

```
Production Environment
```

```
All Addons
```

```
Starfire Monitoring
```

```
None
```

```
Do you want to uninstall Production Environment? [y|n|q]
```

2. 製品環境をアンインストールしない場合、つまり、モジュールを個別にアンインストールする場合は `n` を入力します。

以下のメッセージが表示されます。

```
Do you want to uninstall Production Environment? [y|n|q]
```

3. モジュールをアンインストールする場合は `y`、アンインストールしない場合は `n` を入力します。

アンインストールされるモジュールに続けてメッセージが表示されます。

```
Do you want to change selection? [y|n|q]
```

4. 以下のいずれかの操作をします。

- 選択内容を変更する場合は、**y** を入力します。
選択内容が表示され、手順 3 の先頭に戻ります。
- 選択内容を変更しない場合は、**y** を入力します。
以下のメッセージが表示されます。

```
Proceed with uninstall? [y|n|q]
```

5. アンインストールしてもよい場合は **y**、そうでない場合は **n** を入力します。

y を入力した場合は、アンインストールするパッケージの一覧が表示され、アンインストールされたパッケージ、アンインストール状況、ログファイルの場所が表示されます。

第3章

Starfire システム用の Sun Management Center 3.5 コンポーネントの設定

前章の説明に従って Sun Management Center ソフトウェアのインストールを完了したら、追加コンポーネントのセットアップに進みます。指示しない限り、セットアップスクリプトは、インストールが完了すると自動的に実行されます。

インストール後に、続けて追加コンポーネントのセットアップを行わない場合は、38ページの「セットアップスクリプトを実行する」を参照してください。

詳細は、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』を参照してください。

CLI による Starfire 用追加ソフトウェアのセットアップ

Starfire 用の追加コンポーネントをインストールする場所については、表 2-4 を参照してください。

セットアップスクリプトは、現在インストールされている主要 Sun Management Center コンポーネントを検出します。

例：

```
You have the following Sun Management Center components installed

Sun Management Center Server
Sun Management Center Agent
Sun Management Center Console
```

このメッセージに続いて、セットアップスクリプトから問い合わせがあり、情報が提供されます。以下の節では、**Starfire** 用の各追加コンポーネントの設定手順を説明します。

▼ Starfire ドメイン用追加コンポーネントをセットアップする

Starfire ドメイン用追加コンポーネントのセットアップを行うかどうかの確認が求められます。

```
-----
Starting Sun Management Center Starfire Domain Setup
-----
Would you like to setup this Sun Management Center package? [y|n|q]
```

1. y (はい) を入力します。

セットアップスクリプトは SSP プラットフォームの SNMP エージェントに問い合わせをして Starfire ドメインのプラットフォーム名を取得し、自動的にその名前を表示します。

例：

```
Query the SSP for the Starfire platform name...
The Starfire platform name is allsdsim3.
```

2. SSP 名が取得できなかったために、その入力が必要だった場合は、SSP 名を入力します。
3. SSP からプラットフォーム名を取得できなかったために、その入力が必要だった場合は、プラットフォーム名を入力します。

Starfire プラットフォームのセットアップで、このドメイン用の Sun Management Center エージェントポート番号を正しく設定する必要があることを示すメッセージが表示されます。

```
Added module Config-Reader4u1D to
/var/opt/SUNWsymon/cfg/base-modules-d.dat.
```

```
Remember, when setting up the Sun Management Center Starfire SSP
platform package (SUNWessfp) to add port 1161 to the list of
Starfire domain ports.
```

▼ Starfire プラットフォーム (SSP) 用追加コンポーネントをセットアップする

Starfire プラットフォーム (SSP) 用追加コンポーネントのセットアップを行うかどうか確認が求められます。

```
-----
Starting Sun Management Center Starfire Platform Setup
-----
```

```
Would you like to setup this Sun Management Center package? [y|n|q]
```

1. y (はい) を入力します。

Sun Management Center ソフトウェアに SSP の snmpd トラップを転送するには、snmpd SNMP デーモンを一度停止してから再起動する必要があります。この過程は、セットアップスクリプトによって自動的に示され、次のような再起動を求めるメッセージに対して y (はい) と入力すると、自動的に snmpd デーモンを再起動できます。

例：

```
Added SSP Sun Management Center trap forwarding.
Sun Management Center trap server sdsim1-b7, trap server port 162.

----- IMPORTANT -----
In order to complete SSP trap forwarding setup, the SSP snmpd
process must be restarted. The interruption to SSP services due to
restarting snmpd is brief. However, restarting the SSP snmpd
process may delay or cause to fail SSP operations which require
snmpd. Commands affected include hpost(1m) and bringup(1m).

No bringup or hpost processes are currently running.

If you choose to not restart snmpd now, you must restart snmpd
before you start the Sun Management Center agents.

Would you like to restart the SSP snmpd process now? [y|n|q]
```

bringup または hpost プロセスが動作している場合は、メッセージにプロセス番号が示されます。

例：

```
Added SSP Sun Management Center trap forwarding, Sun Management
Center trap server sdsim1-b7, trap
server port 162.

----- IMPORTANT -----
In order to complete SSP trap forwarding setup, the SSP snmpd
process must be restarted. The interruption to SSP services due to
restarting snmpd is brief. However, restarting the SSP snmpd
process may delay or cause to fail SSP operations which require
snmpd. Commands affected include hpost(1m) and bringup(1m).

bringup or hpost processes are currently running:
  UID   PID PPID C STIME   TTY   TIME CMD
  ssp 10511 21978 0 15:13:35 pts/26 0:00 /usr/bin/sh
/opt/SUNWssp/bin/bringup -A off
  ssp 10619 10511 6 15:15:00 pts/26 0:00 hpost

If you choose to not restart snmpd now, you must restart snmpd
before you start the Sun Management Center agents.

Would you like to restart the SSP snmpd process now? [y|n|q]
```

SSP snmpd プロセスを自動で再起動しなかった場合は、このホストの Sun Management Center エージェントを起動する前に手動で SSP snmpd プロセスを再起動する必要があります。詳細は、36 ページの「SSP snmpd プロセスの再起動」を参照してください。

2. SSP snmpd を再起動するかどうかの確認を求められたら、y (はい) を入力します。

snmpd プロセスが停止されて、再起動待ちになり、新しい snmpd プロセス番号が表示されます。通常、セットアップスクリプトは SSP 構成ファイルから自動的にプラットフォーム名を取得します。

例：

```
Would you like to restart the SSP snmpd process now? [y|n|q] y
Waiting for SSP snmpd process to restart...
SSP snmpd restarted, process id 10644.

SSP snmpd SNMP port 5050

platform name is: allxf2
```

3. SSP からプラットフォーム名を取得できなかったために、その入力が必要だった場合は、プラットフォーム名を入力します。

注 – 適切なプラットフォーム名を入力してください。この名前は、Sun Management Center の動作中、SSP 情報へのアクセスや Starfire プラットフォームの識別に使用されます。

セットアップスクリプトは自動的に、Sun Management Center エージェントが使用するよう設定されている SNMP ポートを特定し、そのポート番号を表示します。

例：

```
Checking Sun Management Center Agent configuration.  
Sun Management Center Agent port: 161
```

4. Sun Management Center エージェントがポート 161 を使用するよう設定している場合は、代替ネットワークポートの指定が求められるため、そのポート番号を入力します。

詳細は、9 ページの「ネットワークポートの設定条件」を参照してください。

セットアップスクリプトは、主要 Sun Management Center 設定ファイルにプラットフォームエージェント用のポートが正しく設定されているかどうかを調べ、このポートが現在使用されていないかどうかを確認します。

例：

```
Checking Sun Management Center Platform agent configuration.  
Verifying port number: 166  
Sun Management Center Platform Agent port: 166
```

- プラットフォームエージェント用のポートが使用中で、別のネットワークポートを選択するよう求められた場合は、別のポートを選択します。

```
Warning, port 166 is currently in use.  
You need to either pick a different port, or insure that port 166  
is available when you next start Sun Management Center.  
Do you still wish to use port 166? [y|n|q] n  
Enter new Sun Management Center Agent port: 1166
```

詳細は、9 ページの「ネットワークポートの設定条件」を参照してください。

Sun Management Center エージェント用またはプラットフォームエージェント用の **SNMP** ポートを変更すると、**Sun Management Center** のセキュリティーキーを再生成するよう求められます。**SNMP** ポート番号を変更した場合は、このホストで **Sun Management Center** エージェントを起動する前に、**Sun Management Center** のセキュリティーキーを再生成する必要があります。

- セキュリティーキーを再作成するよう求められたら、**y** (はい) を入力します。

```
The Sun Management Center agent and platform agent security keys  
must be regenerated because the agent port numbers used have been  
changed.  
  
Do you want to regenerate the security keys now? [y|n|q] y
```

『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の説明に従って、セキュリティーキーを設定します。**Sun Management Center** のセキュリティーキーの再作成を求められた時に **n** (いいえ) を入力した場合は、**Sun Management Center** ソフトウェアを起動する前に手動でセキュリティーキーを再生成する必要があることを示す警告メッセージが表示されます。

Starfire プラットフォームに予備 **SSP** が設定されているかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。

```
Is this Starfire platform configured with a spare SSP? [y|n|q]
```

- プラットフォームに予備の **SSP** がある場合は **y** (はい) を入力します。プラットフォームに予備の **SSP** がない場合は **n** (いいえ) を入力します。

注 - 予備の SSP がある場合は、メインと予備の両方の SSP に、Sun Management Center エージェントと Starfire 用追加コンポーネントをインストールします。メインと予備の SSP の間にインストールおよびセットアップ手順の違いはありません。メインと予備の両方の SSP を設定するかどうかを求めるメッセージが表示されたら、y (はい) を入力してください。メインおよび予備の SSP とともに、同じネットワークポート設定を使用する必要があります。

Starfire トポロジオブジェクトの作成では、予備の SSP の構成情報が使用されます。詳細は、第 4 章を参照してください。

8. (省略可能) 予備の SSP がある場合は、代替 SSP 名の入力を求めるプロンプトに対して、代替 SSP 名を入力します。メインの SSP で Sun Management Center ソフトウェアをセットアップしている場合は、予備の SSP が代替 SSP になります。予備の SSP でセットアップしている場合は、メインの SSP が代替 SSP になります。

代替 SSP の Sun Management Center エージェントおよびプラットフォームエージェントをセットアップするときに指定すべきポートが示されます。

```
Please enter the alternate SSP hostname (not xf2-ssp) for this
platform.
Alternate SSP hostname: xf2-ssp2
Remember on SSP xf2-ssp2 the Agent must be configured to use port
1161.
Remember on SSP xf2-ssp2 the Platform Agent must be configured to
use port 166.
```

Starfire プラットフォームは、Starfire ドメインに割り当てられている SNMP ポートを確認し、それぞれのドメインから情報を取得します。ここで取得した情報は、Starfire トポロジオブジェクトの作成に使用されます。また、Starfire ドメイン用の追加コンポーネントが収集したハードウェア構成情報を利用するときにもこの情報が必要になります。詳細は、47 ページの「Starfire トポロジオブジェクト」を参照してください。

現在のデフォルトポートが表示され、ポートのリストの変更を求めるメッセージが表示されます。

```
このプラットフォーム構成リーダーは、Starfire ドメインに読み込まれた Sun Management Center 構成リーダーモジュールから任意にデータを取得します。
```

```
The default ports to be checked for Starfire Domains are: 161
```

```
Do you want to change the ports that will be checked? [y|n|q]
```

デフォルトでは、Sun Management Center エージェントはポート 161 にインストールされます。しかし、実際には、ポート 161 での衝突を回避するため、Starfire ドメインエージェントが別のポートを使用するように設定していることもあります。

9. すべての Starfire ドメインエージェントでデフォルトのポート 161 を使用する場合は、n (いいえ) を入力します。これ以外のポートを設定している場合は、y (はい) を入力します。この場合は、Starfire ドメインエージェントのネットワークポートの指定を求められるため、手動で入力します。複数のポートを指定する場合は、空白で区切ってください。

例：

```
Do you want to change the ports that will be checked? [y|n|q] y
Use space to separate multiple port numbers, just press <Enter> to
check no ports.
Enter port numbers: 161 1161
```

必ず、Starfire ドメイン用の Sun Management Center エージェントに割り当てられているすべてのポートを指定してください。

追加されたモジュールが表示され、セットアップスクリプトによるセットアップが完了します。

例：

```
Updating alarm limits with SSP information.
Updating temperature alarm limits.
Updating voltage alarm limits.

Added module Config-Reader4u1P to
/var/opt/SUNWsymon/cfg/platform-modules-d.dat.
Added module sspStatus to
/var/opt/SUNWsymon/cfg/base-modules-d.dat.
Updated symon.conf information.
Updated Discovery Table information.
```

Sun Management Center 3.5 ソフトウェアのセットアップウィザードによる Starfire 用追加ソフトウェアのセットアップ

この節では、Sun Management Center 3.5 のセットアップウィザードを使用して Starfire 用追加ソフトウェアのセットアップをする方法を説明します。ソフトウェア全体の設定作業の詳細は、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の第 6 章「Sun Management Center 3.5 のインストールと設定」を参照してください。

注 – パネルの下部にある「戻る」ボタンが有効な場合 (ボタンがグレー表示されていない場合)、ボタンをクリックして直前の操作に戻ることができます。「戻る」ボタンがグレー表示されている場合、ボタンは無効で、直前の操作に戻ることはできません。

注 – Sun Management Center 3.5 主要ソフトウェアのセットアップ中に `setup-responses-file` を使用して、現在のマシンの設定の複製を他のマシン上に作成する場合は、必ず「セットアップ応答データの保存」をクリックします。これで、自分の行ったすべての応答が、`/var/opt/SUNWsymon/install/setup-responses-file` に保存されます。詳細は、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の「Solaris プラットフォーム上のベース製品とアドオンの設定」を参照してください。

▼ セットアップウィザードを使用して Starfire ドメイン用追加ソフトウェアをセットアップする

Starfire ドメインエージェントのセットアップは、ドメインエージェントをインストールした Starfire ドメイン上で行います。

1. Starfire ドメインから es-guisetup を入力して、Sun Management Center 3.5 のセットアップウィザードを起動します。

Sun Management Center 主要ソフトウェアのセットアップを完了すると、システムにインストールされているプラットフォーム別追加製品の一覧からなる「アドオン製品の選択」パネルが表示されます。この例では、Starfire Monitoring が製品またはプラットフォームです。

```
The following add-on products are newly installed on this system
and will be set up.
```

```
- Starfire Monitoring
```

2. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

次の「Starfire ドメインの設定」パネルが表示されます。

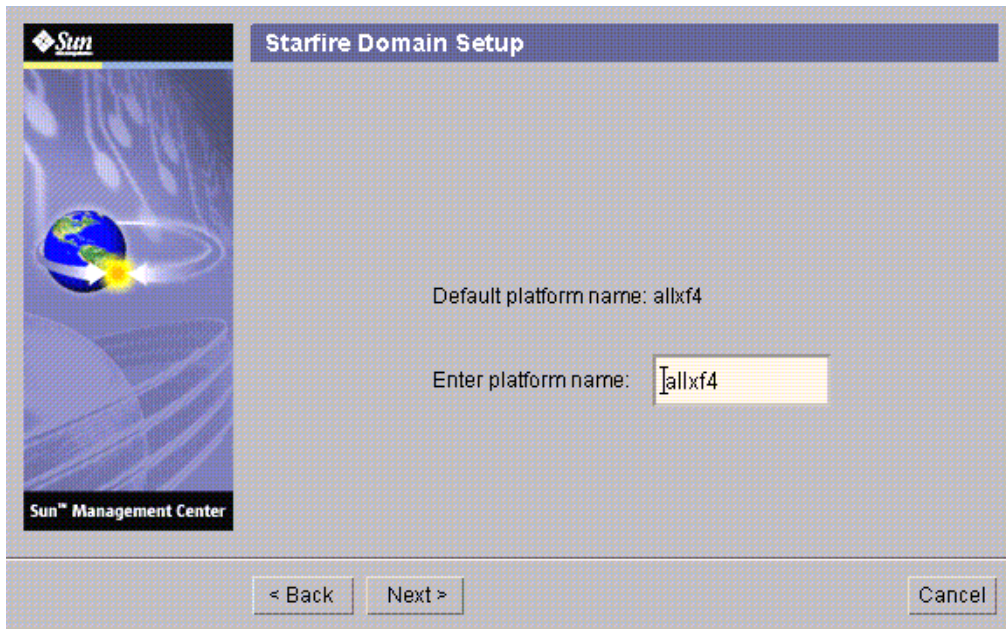


図 3-1 デフォルトのプラットフォーム名のパネル

セットアップスクリプトは、システムサービスプロセッサ上のプラットフォームエージェントからこの Starfire ドメインのプラットフォーム名を取得しようとします。

3. SSP からプラットフォーム名を取得できなかったために、その入力が必要だった場合は、プラットフォーム名を入力します。

4. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Starfire ドメインの設定」パネルに以下のメッセージが表示されます。

```
Starfire domain setup is complete.
```

```
When setting up SSP platform add port 161 to Starfire domain ports list.
```

▼ セットアップウィザードを使用して Starfire プラットフォーム用追加ソフトウェアをセットアップする

Starfire プラットフォームエージェントのセットアップは、プラットフォームエージェントをインストールしたマシン上で行います。

1. プラットフォームエージェントがインストールされているマシン上で `es-guisetup` と入力して、Sun Management Center のセットアップウィザードを起動します。

Sun Management Center の主要ソフトウェアのセットアップが完了すると、ウィザードによって次のメッセージが表示されます。

```
Select Add-on Products
```

```
The following add-on products are newly installed on this system  
and will be set up.
```

```
- Starfire Platform Administration
```

2. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Starfire プラットフォームの設定」パネルに以下のメッセージが表示されます。



図 3-2 snmpd の再起動パネル

3. 以下のいずれかの操作をします。

- ただちに SSP の snmpd プロセスを再起動する場合は、「はい」のラジオボタンをクリックします。

ここでプロセスを起動しなかった場合は、このホストの Sun Management Center エージェントを起動する前に 手動で SSP の snmpd プロセスを再起動する必要があります。詳細は、36 ページの「SSP snmpd プロセスの再起動」を参照してください。

- ただちに SSP の snmpd プロセスを再起動しない場合は、「いいえ」のラジオボタンをクリックします。

4. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

以下のいずれかが起こります。

- セットアップスクリプトが SSP からプラットフォーム名を取得できた場合は、そのプラットフォーム名が表示されます。
- セットアップスクリプトが SSP からプラットフォーム名を取得できなかった場合は、「Starfire プラットフォームの設定」パネルでプラットフォーム名の入力求められます。
- プラットフォーム名を入力します。

適切なプラットフォーム名を入力してください。この名前は、Sun Management Center の動作中、SSP 情報へのアクセスや Starfire プラットフォームの識別に使用されます。

5. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

セットアップスクリプトは自動的に、Sun Management Center エージェントが使用するよう設定されている SNMP ポートを特定し、そのポート番号を表示します。

6. Sun Management Center エージェントがポート 161 を使用するように設定している場合は、代替ネットワークポートの指定が求められるため、そのポート番号を入力します。

例：

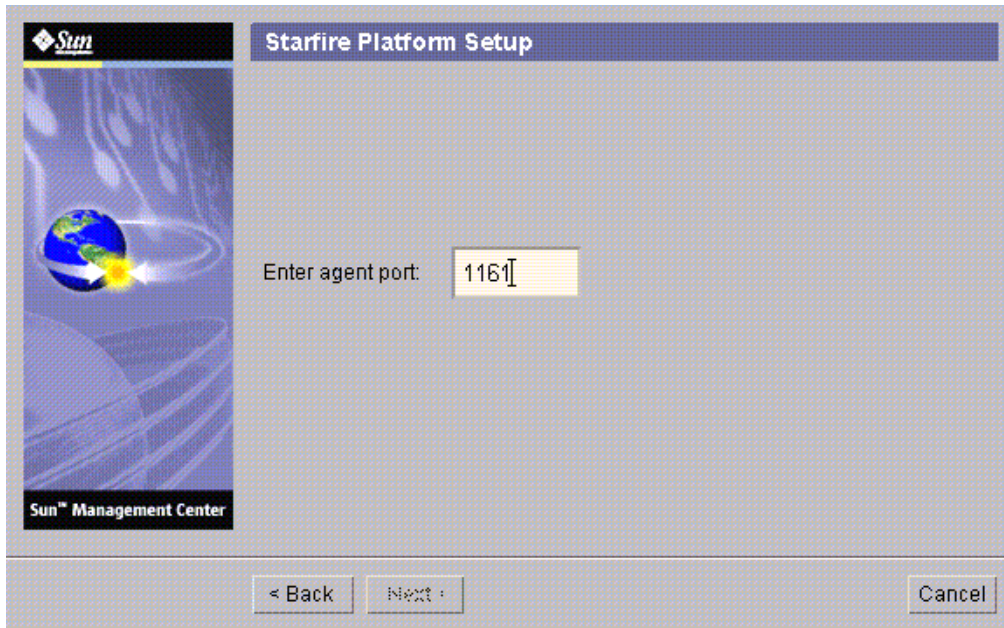


図 3-3 エージェントポートの入力のパネル

詳細は、9 ページの「ネットワークポートの設定条件」を参照してください。

7. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

セットアップスクリプトによって、設定されたポートが現在使用されていないかどうか自動的に判定されます。

8. プラットフォームエージェント用のポートが使用中で、別のネットワークポートを選択するよう求められた場合は、別のポートを入力します。

9. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

SNMP ポートを変更した場合は、Sun Management Center のセキュリティーキーの再生成を求めるメッセージが表示されます。

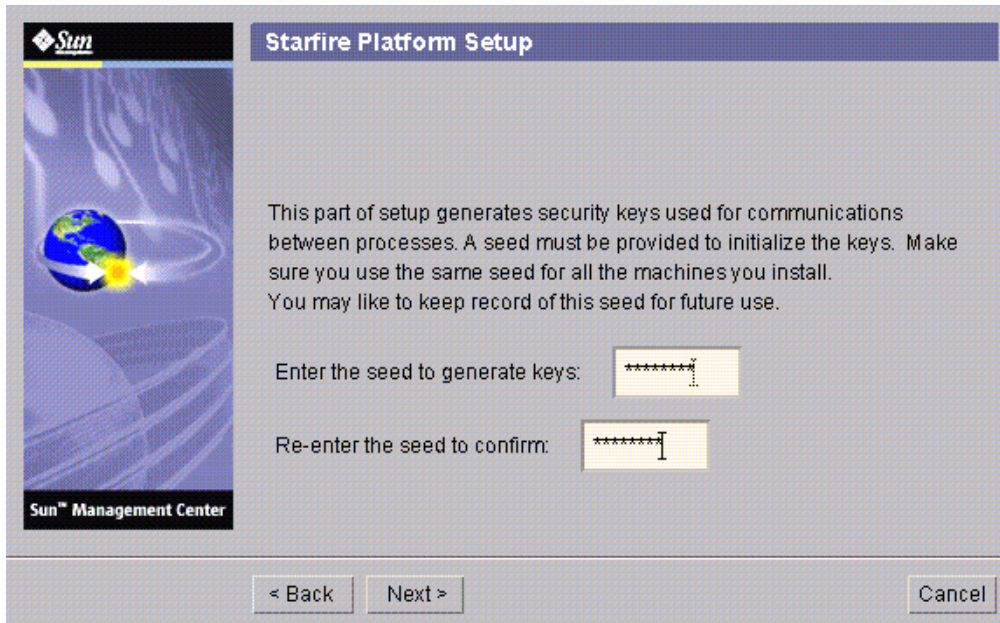


図 3-4 セキュリティーキーの生成のパネル

- シードを 2 回入力して、セキュリティーキーを初期化します。
セキュリティーキーの詳細は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』を参照してください。セキュリティーキーをここで再生成しなかった場合は、Sun Management Center を起動する前に手動で再生成する必要があります。
10. 「次へ」をクリックして、次に進みます。
「Starfire プラットフォームの設定」パネルに以下のメッセージが表示されます。

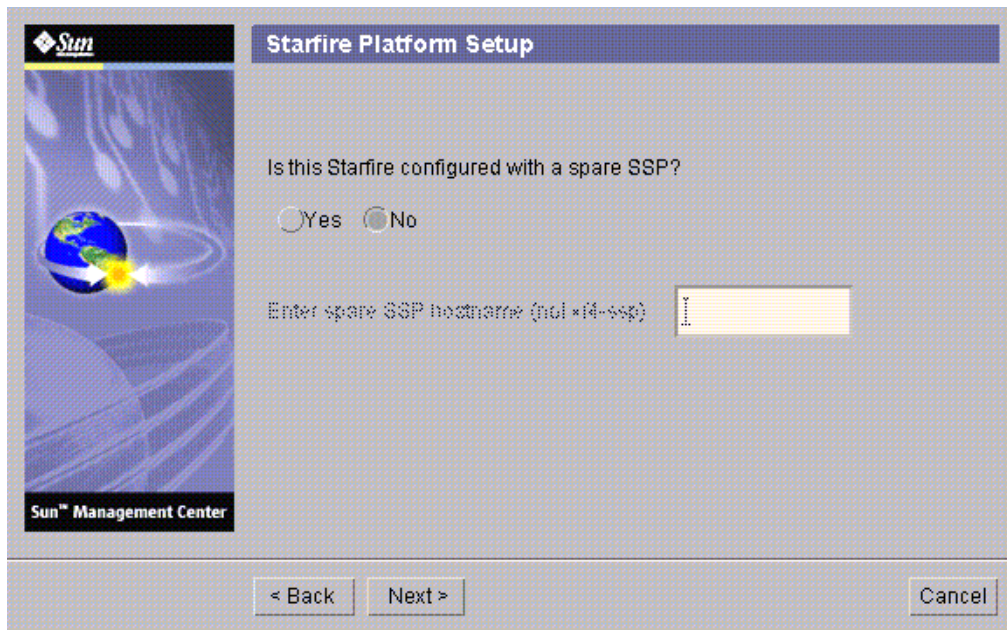


図 3-5 予備 SSP のパネル

11. 以下のいずれかの操作をします。

- この Starfire に予備の SSP が設定されていない場合は、「いいえ」のラジオボタンをクリックします。
- この Starfire に予備の SSP が設定されている場合は、「はい」のラジオボタンをクリックします。

注 – 予備の SSP がある場合は、メインと予備の両方の SSP に、Sun Management Center エージェントと Starfire 用追加コンポーネントをインストールします。メインと予備の SSP の間にインストールおよびセットアップ手順の違いはありません。メインと予備両方の SSP を構成する場合は「はい」をクリックします。メインおよび予備の SSP とも、同じネットワークポート設定を使用する必要があります。

Starfire トポロジオブジェクトの作成では、予備の SSP の構成情報が使用されます。詳細は、第 4 章を参照してください。

12. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Starfire プラットフォームの設定」パネルに現在のデフォルトポートが表示され、ポートの一覧に変更を加えるかどうか問い合わせがあります。

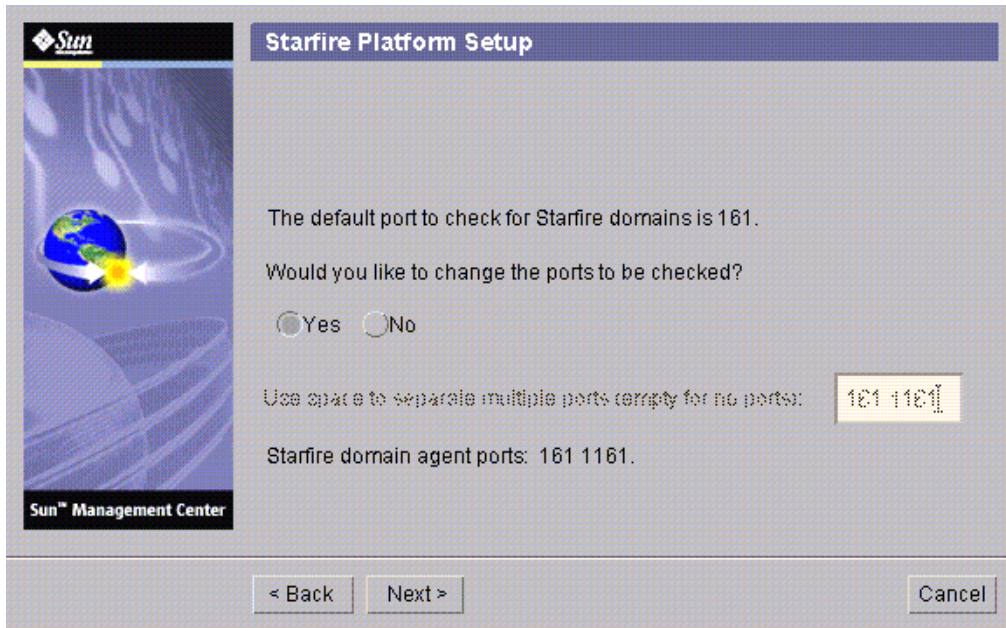


図 3-6 ドメインポートの確認のパネル

デフォルトでは、Sun Management Center エージェントはポート 161 にインストールされます。しかし、実際には、ポート 161 での衝突を回避するため、Starfire ドメインエージェントが別のポートを使用するように設定していることもあります。

13. 以下のいずれかの操作をします。

- すべての Starfire ドメインエージェントがデフォルトのポート 161 を使用する場合は、「いいえ」のラジオボタンをクリックします。
- 1 つでもこれ以外のポートを設定した場合は、「はい」のラジオボタンをクリックします。Starfire ドメインエージェントのネットワークポート (複数の場合は空白で区切る) を入力します。

必ず、Starfire ドメイン用の Sun Management Center エージェントに割り当てられているすべてのポートを指定してください。

14. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

追加されたモジュールが表示され、セットアップスクリプトによるセットアップが完了します。

SSP snmpd プロセスの再起動

SSP snmpd トラップ転送に加えた変更を有効にするには、SSP snmpd 構成ファイルを変更した後で、SSP snmpd プロセスを再起動する必要があります。SSP snmpd 構成ファイルの変更が必要となるのは、Starfire プラットフォーム用の Sun Management Center パッケージセットアップスクリプトを実行した場合と、Sun Management Center パッケージを削除した場合です。

Starfire プラットフォーム用パッケージのセットアップ中の snmpd の再起動

Starfire プラットフォーム用の Sun Management Center パッケージのセットアップスクリプトは、SSP snmpd プロセスを自動的に再起動することを求めるメッセージを表示します。SSP snmpd プロセスを自動的に再起動しない場合は、Sun Management Center エージェントを起動する前に手動でプロセスを再起動する必要があります。

Starfire プラットフォーム用パッケージ削除後の snmpd の再起動

Sun Management Center の Starfire プラットフォーム用パッケージを削除すると、SSP snmpd 構成ファイルからトラップ転送エントリが削除されます。構成ファイルに対するこの変更を有効にするには、SSP snmpd プロセスを再起動する必要があります。パッケージ削除スクリプトが、SSP snmpd プロセスを自動的に再起動することはありません。SSP snmpd プロセスを再起動しない限り、SSP snmpd トラップは引き続き転送されます。

新しいバージョンへのアップグレードではなく、Sun Management Center ソフトウェアを SSP から完全に削除する場合は、36 ページの「SSP snmpd プロセスの再起動」の説明に従って、必ず SSP snmpd プロセスを再起動してください。

snmpd の再起動に関する注意事項

SSP の snmpd プロセスは、SSP の機能に不可欠です。メイン SSP 上で snmpd プロセスが動作していないことが検出された場合、SSP ソフトウェアは自動的にプロセスを再起動します。

SSP snmpd プロセスの再起動により、SSP サービスに多少の遅延が発生します。hpost(1M) または bringup(1M) の動作中は、SSP snmpd プロセスを終了しないでください。hpost(1M) または bringup(1M) コマンドで問題が発生することがあります。

注 – SSP snmpd プロセスを終了、再起動した後、hpost(1M) と bringup(1M) コマンドが影響を受けることはありません。

snmpd の再起動方法

snmpd を再起動する方法は 2 通りあります。

- SSP を再起動する。
- SSP snmpd プロセスを終了する。

どちらの場合も、SSP ソフトウェアは自動的に SSP snmpd プロセスを再起動します。

▼ snmpd を終了する

1. スーパーユーザーでメイン SSP にログインします。
2. 次のコマンドを入力して、snmpd のプロセス番号を調べます。

```
# ps -ef | grep snmpd
```

次のようなメッセージが表示されます。

```
root プロセス番号 1 0 Jun 17 11:31 snmpd
```

3. snmpd が動作している場合は、次のコマンドを入力して snmpd プロセスを終了します。

```
# kill プロセス番号
```

プロセス番号は、手順 2 で確認したプロセス識別 (pid) 番号です。

注意 – プロセス番号を間違えないでください。



Starfire 用設定パラメタの再設定

Starfire 用設定パラメタは、セットアップスクリプトの再実行により、いつでも再設定できます。次にあげるような変更を行った場合は、必ずその変更に合わせて Starfire 用設定パラメタを適切な値に再設定してください。

- Starfire のプラットフォーム名を変更した場合は、Starfire ドメインおよびプラットフォーム (SSP) 用コンポーネントを再設定します。
- Starfire ドメイン用の Sun Management Center エージェントのポート設定を変更した場合は、Starfire プラットフォーム (SSP) 用コンポーネントを再設定します。
- プラットフォーム構成に予備の SSP を追加するか、構成から削除した場合は、Starfire プラットフォーム (SSP) 用コンポーネントを再設定します。
- Sun Management Center サーバーホストまたはトラップエージェントのポート設定を変更した場合は、Starfire プラットフォーム (SSP) 用コンポーネントを再設定します。
- SSP ソフトウェアを再インストール、あるいは SSP の `ssp_resource` ファイルに含まれるデフォルトの電圧または温度アラームのしきい値を変更した場合は、Starfire プラットフォーム (SSP) 用コンポーネントを再設定します。

主要コンポーネントの格納場所については、表 2-4 を参照してください。

▼ セットアップスクリプトを実行する

1. スーパーユーザーでログインし、再設定するコンポーネントを停止します。

コンポーネントの停止に使用するコマンドは、再設定するコンポーネントによって異なります。Starfire 用の各コンポーネントを停止するためのコマンドは、表 3-1 に示すとおりです。

表 3-1 Starfire 用コンポーネントと停止用のコマンド

構成要素	コンポーネントを停止するためのコマンド
Starfire ドメインエージェント	<code>/opt/SUNWsymon/sbin/es-stop -a</code>
Starfire SSP エージェント	<code>/opt/SUNWsymon/sbin/es-stop -al</code>
Sun Management Center サーバー	<code>/opt/SUNWsymon/sbin/es-stop -s</code>

2. 表 3-1 を参考にして、適切なコマンドを入力します。
3. セットアップスクリプトを実行して、コンポーネント階層を設定します。

```
# /opt/SUNWsymon/sbin/es-setup
```

注 – /opt 以外のディレクトリに Sun Management Center ソフトウェアをインストールしている場合は、代わりにそのディレクトリを指定してください。

4. 19 ページの「CLI による Starfire 用追加ソフトウェアのセットアップ」の手順に従って設定作業を行います。
5. 停止したコンポーネントを再起動します。

「エージェント更新」による複数ホストの更新

この節では、エージェント更新を使用して一度に複数のホストを更新する方法を説明します。このエージェント更新プロセスそのものは、Sun Management Center サーバマシンで実行する必要があります。また、更新対象のすべてのホスト上で Sun Management Center 3.5 エージェントを必ず動作させておく必要もあります。

エージェント更新プロセスを起動する前に

エージェント更新を使用して Starfire プラットフォームエージェントモジュールを完全にインストールして設定するには、Sun Management Center サーバマシンでエージェント更新プロセスを実行する前に、更新対象のホスト上のモジュール用のエージェント更新用構成ファイルを作成しておく必要があります。

注 – Sun Management Center 3.5 主要ソフトウェアのセットアップ中に `setup-responses-file` を使用して、現在のマシンの設定の複製を他のマシン上に作成する場合は、必ず「セットアップ応答データの保存」をクリックします。これで、自分の行ったすべての応答が、`/var/opt/SUNWsymon/install/setup-responses-file` に保存されます。詳細は、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の「Solaris プラットフォーム上のベース製品とアドオン製品」を参照してください。

▼ 更新対象のホスト上でエージェント更新用設定ファイルを作成する

1. Starfire プラットフォームエージェントが更新対象のすべてのホストにインストールされていることを確認します。
2. es-setup スクリプトまたは es-guisetup ウィザードを使用して、更新対象のホスト上で Starfire プラットフォームエージェントモジュールがセットアップされていることを確認します。

この確認を終えると、最初に提供されたホスト別の情報を利用した、エージェント更新による以降のプラットフォームエージェント設定処理が自動的に機能します。

エージェント更新プロセスの使用

エージェント更新では、目的のマシンに配布する追加コンポーネントからなるイメージファイルを作成し、「ジョブの管理」タスクリストに新しいジョブを追加します。

エージェント更新でサポートされる構成

エージェント更新を使用して以下の構成を更新できます。

- 40 ページの「Sun Management Center 3.5 追加ソフトウェアが存在する構成を更新する」
- 44 ページの「追加ソフトウェアが存在しない、または Sun Management Center 3.0 Platform Update 4 追加ソフトウェアが存在する構成を更新する」

▼ Sun Management Center 3.5 追加ソフトウェアが存在する構成を更新する

この手順は、Sun Management Center 3.5 追加ソフトウェアが存在する構成の更新にのみ使用できます。

1. es-gui-imagetool または es-imagetool (基本 Sun Management Center スクリプト) を使用して、目的のエージェントマシンに配布する、適切な Sun Fire Link 追加コンポーネントからなるイメージファイルを作成します。

ウィザードまたは CLI 形式のイメージツールの使用方法に関する詳細は、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の第 8 章「Sun Management Center のインストール後の作業」の参照してください。

2. Sun Management Center メインコンソールウィンドウの「ツール」メニューから「ジョブの管理...」オプションを選択します。

「ジョブの管理」パネル (図 3-7) が表示されます。このパネルからイメージファイルを配布できます。

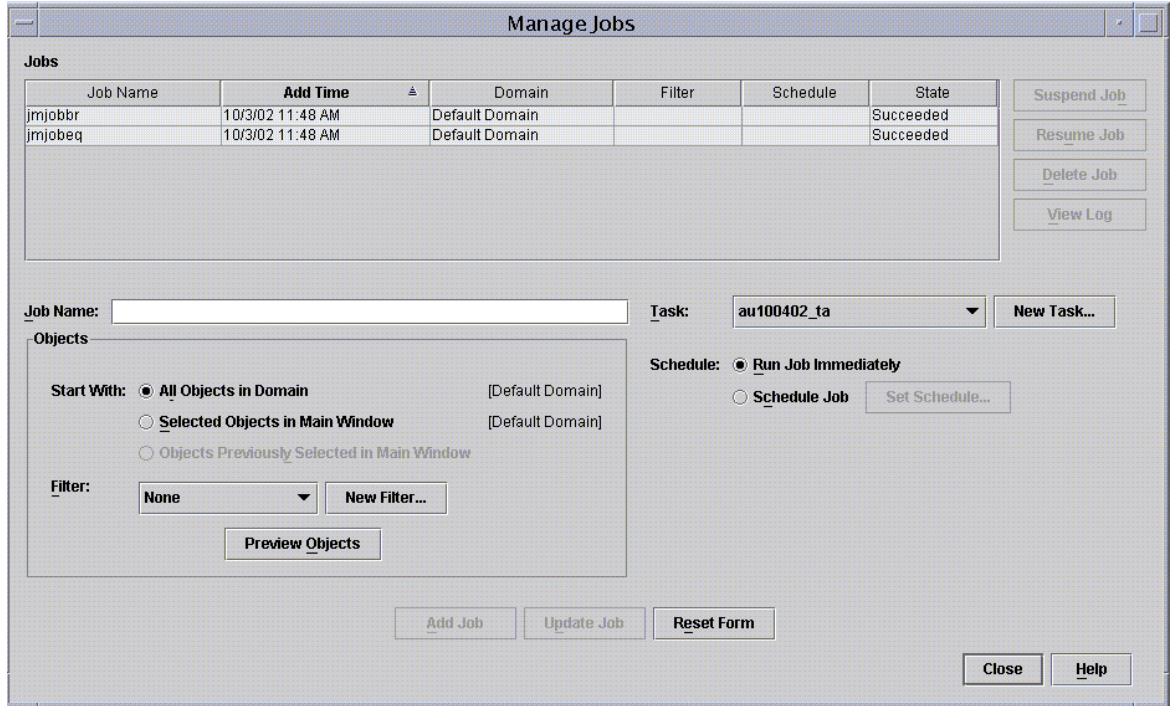


図 3-7 「ジョブの管理」パネル

3. 「ジョブの管理」パネルで「新しいタスク...」ボタンを選択します。

「新しいタスク」パネル (図 3-8) が表示されます。このパネルで、配布するエージェント更新イメージファイルを指定できます。

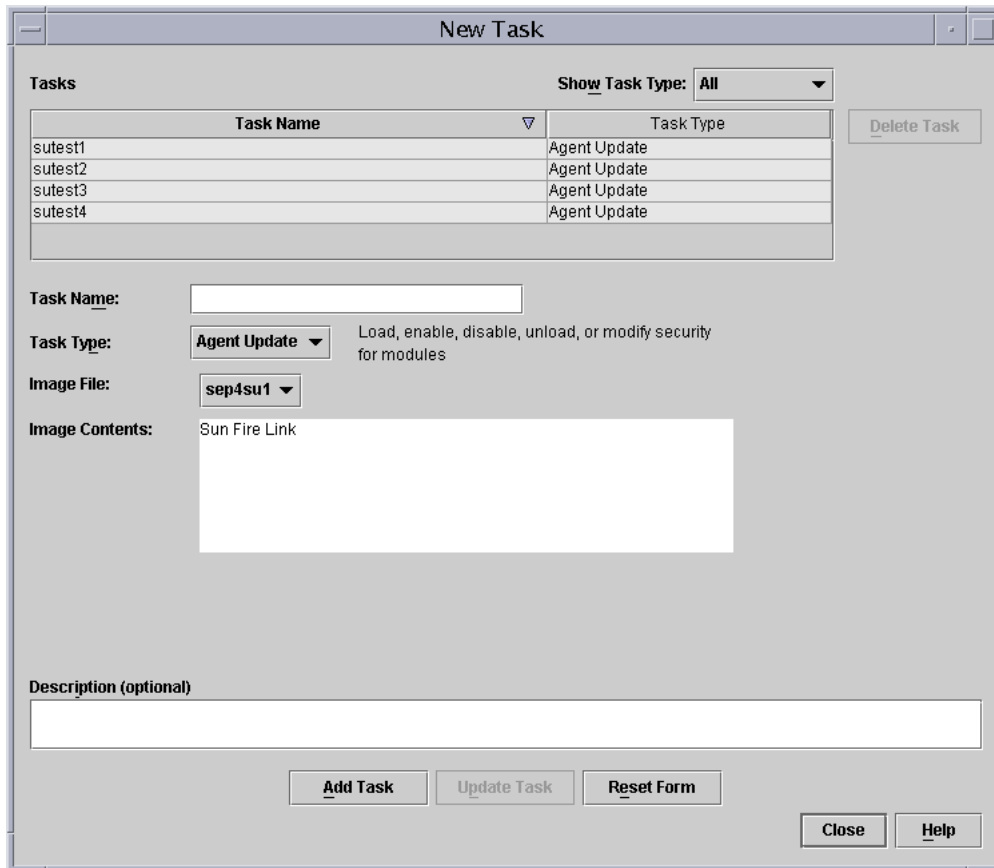


図 3-8 「新しいタスク」パネル

4. 「新しいタスク」パネル (図 3-8) で、以下のことを行います。
 - a. 「タスクタイプ」で「エージェント更新」を選択します。
 - b. 手順 1 で作成したイメージファイルを選択します。
 - c. タスク名を入力します。
 - d. 「タスクの追加」ボタンをクリックします。
 - e. 「閉じる」ボタンをクリックします。
5. 「ジョブの管理」パネル (図 3-7) で、以下のことを行います。
 - a. ジョブ名を入力します。
 - b. 手順 4 で作成したタスクを選択します。

c. 以下のいずれかを行って、タスクの実行予定を作成します。

- タスクをただちに実行する場合は、「すぐに実行」のラジオボタンをクリックします。
- タスクの実行予定を作成する場合は、「ジョブスケジュール」のラジオボタンをクリックして、実行時期を設定します。

注 – イメージファイルの配布先のオブジェクト (エージェントマシン) を選択する前に、すべてのエージェントマシンを含むグループオブジェクトを作成できます。これにより、1 つずつエージェントマシンを選択する必要はなくなります。オブジェクトグループの作成についての詳細は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』の第 3 章「オブジェクトの作成」を参照してください。

d. 以下のいずれかを行って、イメージファイルの配布先のオブジェクト (エージェントマシン) を選択します。

- 「ドメイン内のすべてのオブジェクト」のボタンをクリックして、オブジェクトをさらに選別するためのフィルタを指定します。
- 「メインウィンドウ内の選択オブジェクト」のボタンをクリックして、オブジェクトを 1 つずつ選択します。

e. 選択したオブジェクト (エージェントマシン) を確認し、選択内容に誤りがあれば、やり直します。

f. 「ジョブの追加」ボタンをクリックします。

ジョブが開始され、選択されたオブジェクト (エージェントマシン) にイメージファイルが配布されます。ジョブの実行中は、「ジョブの管理」パネルの「ジョブ」リストにそのことが表示されます。ジョブのステータスとして、ジョブの実行中と完了が示されます。

注 – 複数ホストの更新中に、あるホストで問題が発生すると、他の大部分のホストが正常に更新されたとしても、ステータスとして「Failed (失敗)」が返されます。その場合は、「ジョブの管理」パネルの「ジョブ」リストの右側の「ログ表示」をクリックして、成功および失敗した更新の一覧を参照してください。エージェント更新が成功した場合、Sun Management Center エージェントは自動的に再起動します。配布先のホストのそれぞれについて、Sun Management Center コンソールのホストの詳細ウィンドウで、適切なモジュールが存在し、動作しているかを確認することができます。

▼ 追加ソフトウェアが存在しない、または Sun Management Center 3.0 Platform Update 4 追加ソフトウェアが存在する構成を更新する

この手順は、以下のいずれかの構成の場合に行います。

- 追加ソフトウェアが存在しない構成から Sun Management Center 3.5 追加ソフトウェアへの更新
- Sun Management Center 3.0 Platform Update 4 追加ソフトウェアが存在する構成から Sun Management Center 3.5 追加ソフトウェアへの更新

1. Sun Management Center サーバマシン上でスーパーユーザーとしてログインします。

2. イメージツールのいずれかを使用してエージェント更新イメージを作成します。

- `es-gui-imagetool` を使用してエージェント更新イメージを作成するには、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の「GUI イメージツールを使用する」の手順に従います。
- `es-imagetool` を使用してエージェント更新イメージを作成するには、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の「コマンド行イメージツールを使用する」の手順に従います。

3. 各更新対象マシンのルートディレクトリに

`/opt/SUNWsymon/base/bin/agent-update.bin` ファイルをダウンロードします。

`/opt` 以外のディレクトリに Sun Management Center をインストールしている場合は、`/installldir/SUNWsymon/base/bin/agent-update.bin` をダウンロードします。`installldir` はユーザー指定のインストールディレクトリです。

4. 更新対象のマシン上でスーパーユーザーとしてログインします。

5. ダウンロードした `agent-update.bin` が存在するディレクトリに移動します。

6. `./agent-update.bin -s server -r http-port -p image-name` と入力します。

- `server` は手順 1 でログインしたサーバーです。
- `http-port` は Sun Management Center Web サーバーポートです。
- `image-name` は手順 2 で作成したエージェント専用イメージの名前です。

7. セキュリティーシードおよび SNMPv1 コミュニティー文字列を指定します。

エージェント更新プロセスは、セキュリティーシードおよび SNMPv1 コミュニティー文字列を入力するよう求めます。

- セキュリティーシードは、Sun Management Center サーバーおよびエージェントの設定で指定したのと同じシードである必要があります。

- SNMPv1 コミュニティー文字列は、Sun Management Center サーバーおよびエージェントの設定で指定したのと同じ文字列である必要があります。

上記以外の情報を入力する必要はありません。更新プロセスがマシンに更新イメージを適用します。

更新プロセスが完了したら、サーバーホスト上のログファイル `/var/opt/SUNWsymon/log/agent-update.log` を表示して更新状態を確認します。

注 – プラットフォームエージェントを設定するには、`./es-setup -F` を再実行する必要があります。

CLI による Sun Management Center ソフトウェアの起動

`es-start` コマンドに指定する引数は、起動するコンポーネントによって異なります。

▼ Starfire システムで Sun Management Center ソフトウェアを起動する

1. SSP 上で Sun Management Center エージェントを起動します。

```
# /opt/SUNWsymon/sbin/es-start -al
```

このコマンドにより、通常のエージェントとプラットフォームエージェントの両方が起動します。プラットフォームエージェントは、あらゆる Starfire プラットフォーム情報を Sun Management Center ソフトウェアに提供します。

注 – `/opt` 以外のディレクトリに Sun Management Center ソフトウェアをインストールしている場合は、そのディレクトリを指定してください。

2. Sun Management Centerのエージェント階層だけインストールされている Starfire ドメインの場合は、Sun Management Center エージェントを起動します。

```
# /opt/SUNWsymon/sbin/es-start -a
```

注 - /opt 以外のディレクトリに Sun Management Center ソフトウェアをインストールしている場合は、そのディレクトリを指定してください。

3. すべての階層がインストールされている Sun Management Center サーバーホストの場合は、すべての Sun Management Center コンポーネントを起動します。

```
# /opt/SUNWsymon/sbin/es-start -A
```

注 - /opt 以外のディレクトリに Sun Management Center ソフトウェアをインストールしている場合は、そのディレクトリを指定してください。

注 - Sun Management Center コンポーネントの起動後、初期化に数分かかることがあります。コンポーネントの起動直後に Sun Management Center ソフトウェアを使用しようとして問題が発生した場合は、数分待ってやり直してください。

注 - 再起動すると、すべての Sun Management Center エージェントが自動的に起動します。

4. 次のコマンドを使用して、コンソールを起動します。

```
# /opt/SUNWsymon/sbin/es-start -c
```

注 - /opt 以外のディレクトリに Sun Management Center ソフトウェアをインストールしている場合は、そのディレクトリを指定してください。

起動手順の詳細は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』の「Sun Management Center ソフトウェアの起動」の節を参照してください。

第4章

Starfire トポロジオブジェクト

この章では、Starfire トポロジオブジェクトの作成、編集、検出方法について解説します。Sun Management Center オブジェクトの作成および監視に関する全般的な情報については、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』を参照してください。

Starfire プラットフォーム複合オブジェクト

Starfire 複合オブジェクトは、Starfire プラットフォームに関係するあらゆるホストを含む、Sun Management Center のグループオブジェクトです。Starfire 複合オブジェクトには、SSP、予備の SSP (設定されている場合)、すべての Starfire ドメインが含まれます。Sun Management Center オブジェクトは、SSP から収集された Starfire プラットフォーム情報を表します。Starfire プラットフォームのあらゆる構成要素を簡単に管理できるよう、Starfire 複合オブジェクトには、これらのすべてのオブジェクトが 1 つのグループとしてまとめられます (図 4-1 を参照)。

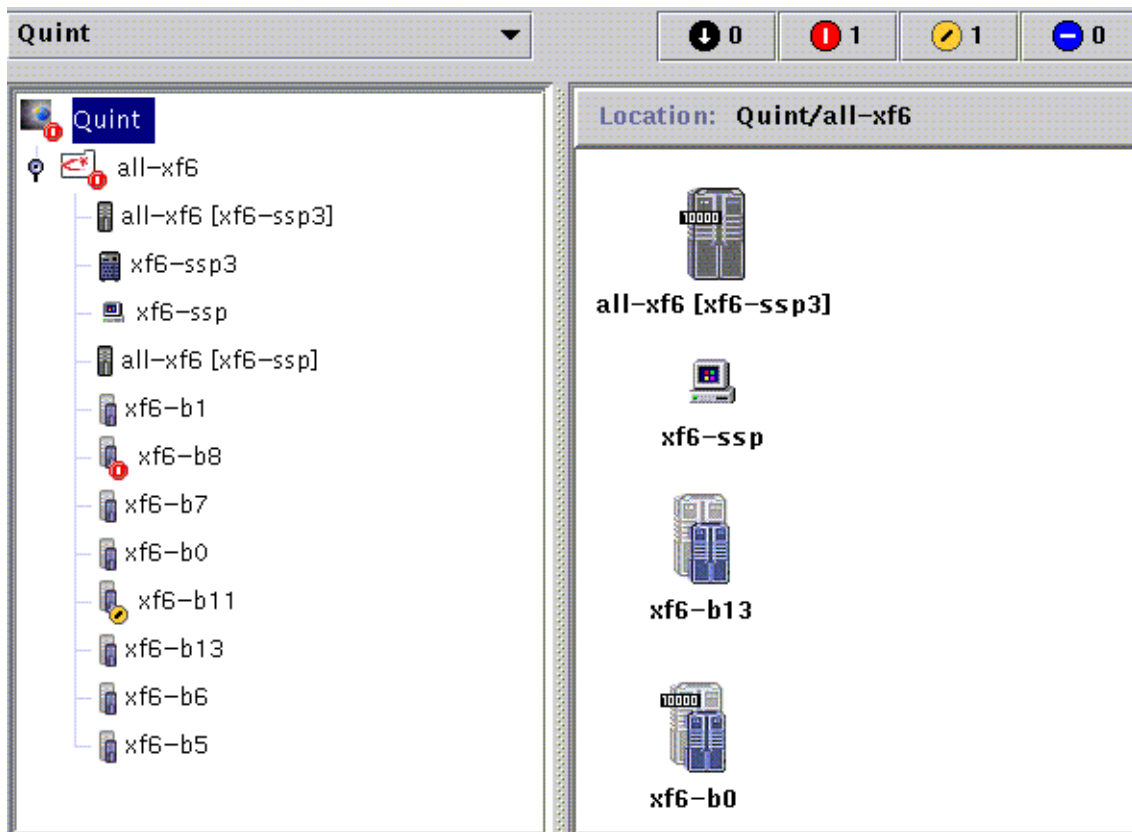


図 4-1 Starfire 複合オブジェクトとそこに含まれるオブジェクト

注 – Sun Management Center エージェントの監視対象となっているホストのアイコンには、マシンのモデルを表す印が付きまます。例えば上図の一番下にあるアイコンに付いている 10000 がそうです。**Sun Management Center** エージェントの監視対象外のホストのアイコンには、この印は付きましません。例えば上図の最初のドメインアイコンがそうです。

SSP は、Starfire プラットフォーム複合オブジェクトに含めるべきオブジェクトに関する情報を Sun Management Center ソフトウェアに提供します。Starfire 複合オブジェクトを作成するときは、SSP のホスト名とエージェントポート番号を指定する必要があります。

Starfire プラットフォーム複合オブジェクト内の SSP および Starfire ドメインホストは、Sun Management Center トポロジの複数のグループに含めることができます。このため、ネットワークグループ別ばかりでなく、Starfire プラットフォームとの関係別にホストを表示することができます。検出要求で Starfire ホストが検出された場

合、そのホストはネットワークグループ別にトポロジ内に組み込まれます。検出要求でメイン SSP が検出された場合は、Starfire ドメインと SSP ホストが Starfire プラットフォーム複合グループに組み込まれます。

Starfire ドメインとプラットフォームを監視するには、「トポロジオブジェクトの作成」ウィンドウで Sun Management Center Starfire 複合オブジェクトを作成するか、Sun Management Center の検出要求を使用します。

▼ Starfire 複合オブジェクトを作成する

1. メインコンソールウィンドウの階層表示で、Sun Management Center ドメイントポロジ内の、新しい複合オブジェクトを作成する階層を表示します。
2. メインコンソールウィンドウの「編集」メニューから「オブジェクトの作成」を選択します。
3. 「トポロジオブジェクトの作成」ウィンドウから「複合」タブを選択します。
4. ラベル (通常は、SSP ソフトウェアの設定で使用した Starfire プラットフォーム名) と SSP ホスト名、SSP 用 Sun Management Center エージェントに割り当てたポート番号を入力します。
5. 「了解」を選択します。

以下のメッセージが表示されます。

```
Creating composite object... Please Wait.
```

この処理に要する時間は Starfire ドメインの数、およびドメインが実行されているかどうかによって異なります。

Sun Management Center ドメイントポロジの現在の場所に Starfire 複合オブジェクトが追加されます。Starfire 複合オブジェクトが作成されない場合は、52 ページの「複合オブジェクトの作成に失敗した原因を究明する」を参照してください。

6. Starfire プラットフォームに関連するすべてのオブジェクトを表示するには、「Starfire」フォルダを開きます。

▼ Starfire 複合オブジェクトを検出する

1. Starfire SSP の IP アドレスを含む Sun Management Center 検出要求を作成します。ネットワークポートのリストに必ず Sun Management Center エージェントポートを含めてください。

2. 検出要求を実行します。

Sun Management Center ドメイントポロジの最上位 (ルートレベル) に Starfire 複合オブジェクトが追加されます。また、Sun Management Center トポロジネットワークグループに SSP が追加されます。

3. Starfire 複合オブジェクトが作成されない場合は、52 ページの「複合オブジェクトの作成に失敗した原因を究明する」を参照してください。

注 – 検出要求の実行時に SSP がビジーだった場合は、検出要求を再実行するか、検出要求の SNMP タイムアウト値を大きくしてください。

次の検出要求フィルタオプションを使用して、Starfire 複合オブジェクトの検出要求をカスタマイズできます。

- フィルタ条件のプラットフォームタイプでは、特定のタイプの Starfire ドメイン、Starfire プラットフォーム、Starfire 複合オブジェクトを検出対象に含めたり、検出対象から除外したりできます。
- フィルタ条件の「ホスト名」および「オペレーティングシステム」では、複合オブジェクト内の Starfire ドメインホストと SSP をホスト名またはオペレーティング環境別に選別できます。これらのフィルタ条件によって、Starfire プラットフォームオブジェクトが選別されることはありません。
- フィルタ条件によって SSP が検出対象から除外されても、検出マネージャーは Starfire 複合オブジェクトが Sun Management Center ドメインに含まれているかどうかを検査します。

Starfire プラットフォーム複合オブジェクトの更新

Starfire プラットフォーム複合オブジェクトを作成した後、複合 Sun Management Center トポロジオブジェクトの内容とタイプが変更されることはありません。次の場合は、複合オブジェクトを更新する必要があります。

- プラットフォーム構成に Starfire ドメインを追加するか、構成から Starfire ドメインを削除した。
- プラットフォーム構成に予備の SSP を追加するか、構成から予備の SSP を削除した。
- Sun Management Center のオブジェクト監視機能によって、正しいモニタータイプが表示されない。たとえば複合オブジェクトを作成したときに Sun Management Center エージェントや Starfire ドメインが動作していなかった場合、Starfire ドメインには ICMP (Internet Control Message Protocol) Ping 監視タイプのホストオブジェクトが作成されます。ドメインホストと Sun Management Center エージェントが再び動作を開始した後、「Sun Management Center エージェント - ホスト」タイプとして監視できるようにするには、Starfire ドメインホストオブジェクトを更新する必要があります。

注 – Sun Management Center エージェントの動作する Starfire ドメインホストが、「Sun Management Center エージェント - ホスト」以外のタイプとして監視されている場合は、SSP プラットフォームの設定で正しい Starfire ドメインポートを指定していることを確認してください。この設定は、構成リーダー (Starfire プラットフォーム) モジュールの Starfire Agent Status オブジェクト内の Starfire プラットフォームの「詳細」ウィンドウで調べることができます。

▼ 「トポロジオブジェクトの作成」で作成した Starfire 複合オブジェクトを更新する

1. 「トポロジオブジェクトの作成」ウィンドウを使用して Starfire プラットフォーム複合を作成した場合、複合オブジェクトの更新はすべて手動で行う必要があります。
 - Starfire 複合オブジェクトを追加または削除した場合は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』の説明に従って、そのオブジェクトを作成または削除してください。
 - 監視タイプを変更した場合は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』の「オブジェクトの変更」の節の説明に従ってトポロジオブジェクトを変更してください。
2. かなりの数の変更がある場合は、トポロジから現在の Starfire 複合オブジェクトをいったん削除して、再作成した方が簡単なことがあります。この手順については、49 ページの「Starfire 複合オブジェクトを作成する」を参照してください。

▼ 検出マネージャーで作成した Starfire 複合オブジェクトを更新する

1. 検出マネージャーを使用して Starfire プラットフォーム複合オブジェクトを作成した場合は、メイン SSP に対する検出要求を実行することによって更新の多くを行うことができます。この検出要求は、手動で開始することも、予定を作成して定期的に開始することもできます。

検出要求を実行すると、次の変更が行われます。

- Starfire ドメインや予備の SSP などの新規 Starfire オブジェクトを、プラットフォーム複合オブジェクトに追加します。
- オブジェクト監視タイプがより高度な監視機能レベルに変更されている場合は、監視タイプを更新します。監視機能のレベルは、「ICMP Ping」監視タイプ、「SNMP Ping」監視タイプ、「Sun Management Center エージェント - ホスト」監視タイプの順に高くなります。

検出要求を実行しても変更されない情報は次のとおりです。

- トポロジオブジェクトはプラットフォーム複合から削除されません。
 - Sun Management Center のコンソールウィンドウを使用してトポロジオブジェクトを変更されている場合、そのオブジェクトの監視タイプは変更されません。
2. トポロジから Starfire プラットフォーム複合を削除して、検出要求を実行することによって、プラットフォーム複合オブジェクトを更新することもできます。

▼ 複合オブジェクトの作成に失敗した原因を究明する

Starfire プラットフォーム複合オブジェクトを作成できない場合は、次の問題がないか調べてください。

1. 「トポロジオブジェクトの作成」を使用した手順、または検出要求の際に、正しい SSP ホスト名および Sun Management Center エージェントポート番号を指定したかどうかを確認します。

注 – この SSP は、プラットフォーム用の予備の SSP ではなく、メインの SSP である必要があります。

2. SSP にログインし、2 つの Sun Management Center エージェントが動作しているかどうかを確認します。

```
ssp# ps -ef | grep esd
root 21020 1 2 Mar 10 ? 84:03 esd - init agent -dir
/var/opt/SUNWsymon
root 21858 1 3 Mar 10 ? 103:07 esd - init platform -dir
/var/opt/SUNWsymon
```

3. 検出要求を再実行してみるか、検出要求の SNMP タイムアウト値を大きくしてみます。
4. 55 ページの「Starfire プラットフォームオブジェクトを作成する」の説明に従いノードを作成することによって直接 Starfire プラットフォームオブジェクトを作成します。
5. プラットフォームの「詳細」ウィンドウの「ブラウザ」タブの内容を調べて、「ハードウェア」に「構成リーダー (Starfire プラットフォーム)」モジュールが読み込まれていて、使用不可になっていないことを確認します。Starfire プラットフォーム複合オブジェクトに含めるオブジェクトは、このモジュールの提供する検出オブジェクトテーブルによって定義されます。

6. SSP 上で次のコマンドを実行して、検出テーブルが正しく作成されていることを確認します。

```
ssp# /opt/SUNWsymon/sbin/es-dt -v
```

出力が得られないか、次の例に含まれている情報がない場合、検出テーブルは正しく作成されていません。

Label	Starfire
Host	<ホスト名>
Port	<ポート番号>
OID	1.3.6.1.4.1.42.2.85.1.1.22
Node Object Type	Starfire-platform-group

この種の出力が得られない場合は、手順 5 からやり直してください。それでも作成されない場合は、購入先に連絡してください。

Starfire プラットフォームオブジェクト

Starfire プラットフォームの情報は、メイン SSP 上で動作する Sun Management Center プラットフォームエージェントによって提供されます。予備の SSP がある場合、Starfire プラットフォーム複合オブジェクトには 2 つの Starfire プラットフォームオブジェクトが存在します。Starfire プラットフォーム情報は、メイン SSP のプラットフォームオブジェクトからのみ入手できます。プラットフォームオブジェクトを複合オブジェクト内のオブジェクトの 1 つとして作成した場合、そのプラットフォームオブジェクト名には、対応する SSP 名が角括弧付きで含まれます。予備とメインのトポロジオブジェクトを区別するため、予備の SSP オブジェクトおよび対応する Starfire プラットフォームオブジェクトには「使用不可」アラームアイコンが付きます (図 4-2)。

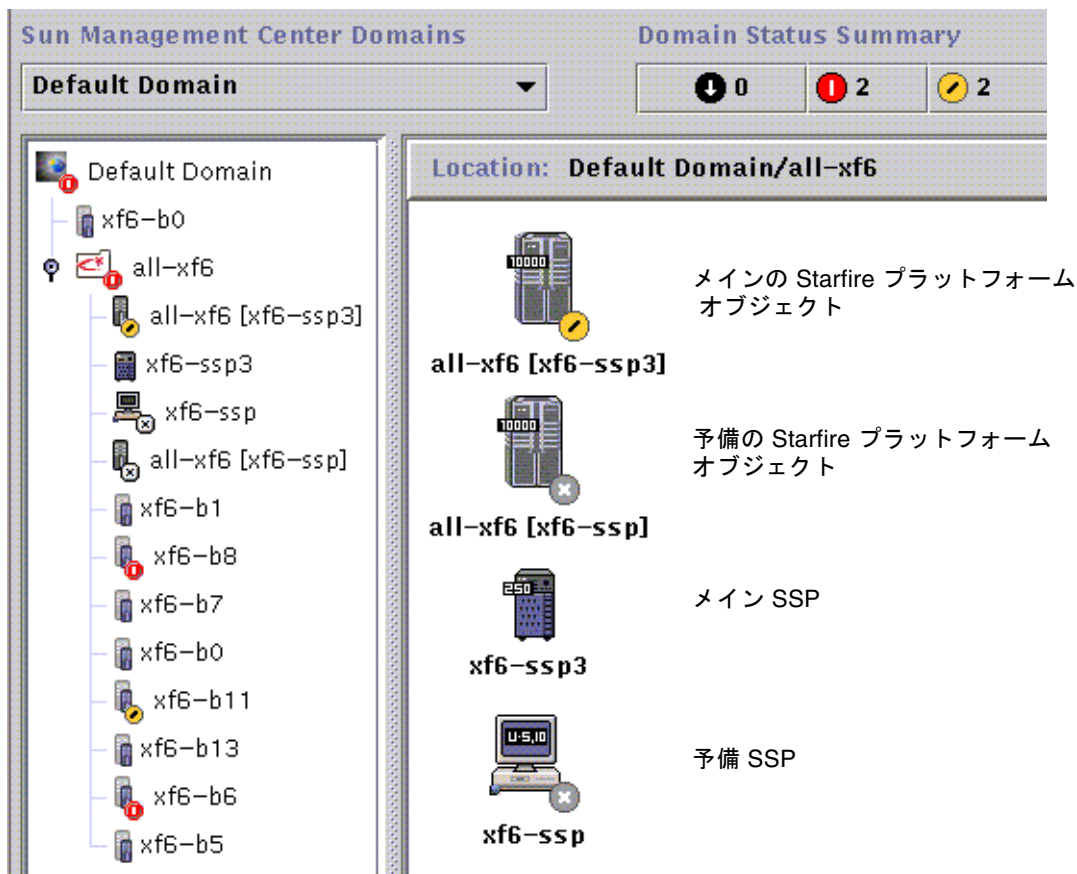


図 4-2 メインおよび予備の Starfire プラットフォームと SSP のアイコン

注 - 予備の SSP または Starfire プラットフォームに「使用不可」よりも重要なアラームが存在する場合、そのオブジェクトには、「使用不可」アラームアイコンではなく、より重要度の高いアラームアイコンが表示されます。

上図でメインの SSP と予備の SSP のアイコンの外観が異なることに注意してください。これは、メインの SSP がワークグループサーバーで、予備の SSP が Ultra ワークステーションであるためです。また、メインのプラットフォームオブジェクトには警告状態のアラームが表示されています。

メインおよび予備の SSP に Sun Management Center をインストール、セットアップして、Starfire プラットフォームオブジェクトを作成した後、予備の SSP が代理のメイン SSP になったとしても、Sun Management Center の構成を変更する必要はありません。

予備の SSP から代理のメイン SSP への切り替えが発生すると、代理のメイン SSP 上のプラットフォームエージェントが有効になり、Starfire プラットフォームに関する現在の情報を収集します。

必ずしも、新たにアクティブになったプラットフォームエージェントから、この切り替えの前に入手可能であったすべての情報を入手できるわけではありません。発生した調停停止回数 (arbstops) はゼロにリセットされます。高温などのエラーは、その状態が持続している場合にのみ報告されます。

予備およびメイン SSP 上の Sun Management Center エージェントの同期が自動的に取られることはありません。メインまたは予備のいずれかの SSP 上の Sun Management Center エージェントのデフォルトのしきい値、属性、読み込みモジュールを変更した場合は、もう一方の SSP 上で動作するエージェントも変更してください。

▼ Starfire プラットフォームオブジェクトを作成する

Starfire プラットフォームオブジェクトは、Starfire 複合オブジェクト内の 1 オブジェクトとして作成されます。ユーザー自身がプラットフォームオブジェクトを作成することもできます。

1. 『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』の第 3 章の「ノードを作成する」の手順に従って、Starfire プラットフォームオブジェクトを作成します。
2. 上記手順の手順 3 で「監視ツール」プルダウンメニューから監視タイプとして「エージェント - プラットフォーム」を選択します。
3. 「ノードの作成」の手順 4 で メイン SSP の名前または IP アドレスを入力します。

注 - プラットフォームエージェント用のデフォルトのポート番号は 166 です。Sun Management Center の設定で別のポートを割り当てたのでない限り、このポート番号を変更しないでください。

4. 「了解」をクリックします。

第5章

Starfire システムに関する詳細ウィンドウ

Starfire 用の追加コンポーネントは、次の Sun Management Center エージェントモジュールで構成され、これらのモジュールが提供する情報は Starfire システムの詳細ウィンドウに表示できます。

表 5-1 Sun Management Center エージェントモジュール

モジュール名	詳細ウィンドウ
構成リーダー (Starfire ドメイン)	Starfire ドメイン
構成リーダー (Starfire プラットフォーム)	Starfire プラットフォーム
SSP の状態	SSP
検出テーブル	SSP

これらのモジュールは Starfire ハードウェアを監視し、Starfire 複合オブジェクトの構成情報を提供します。これらのモジュールが提供するオブジェクトおよび属性の詳細は、67 ページの「Starfire 用エージェントモジュール」を参照してください。

この章では、詳細ウィンドウに表示される Starfire ドメインおよびプラットフォーム情報について説明します。Sun Management Center の詳細ウィンドウの使用方法に関する全般的な情報は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』の次の 3 つの章を参照してください。

- 第 5 章「Sun Management Center でのオブジェクト管理」 - Sun Management Center のメインコンソールウィンドウの使用方法を説明しています。
- 第 6 章「管理オブジェクトの詳細表示」 - Sun Management Center のメインコンソールウィンドウから詳細ウィンドウを表示する方法を説明しています。

Starfire ドメインの詳細ウィンドウ

Starfire ドメインの「詳細」ウィンドウは、「ハードウェア」タブに追加情報が表示されることを除けば、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』で説明しているホストの「詳細」ウィンドウに似ています。

注 – Sun Management Center サーバーホストに Starfire サポート機能が正しくインストールされていない場合、Starfire ドメインの「詳細」ウィンドウには「ハードウェア」タブは表示されません。Starfire 用追加コンポーネントのインストールと設定を完了して、インストール後に Sun Management Center サーバープロセスを再起動していることを確認してください。

「ハードウェア」タブには、Starfire ドメイン構成リーダーモジュールの提供する情報が表示されます。この構成リーダーモジュールは、システムボードおよびシステムボードに搭載されている次のコンポーネントに関する最新の情報を提供します。

- プロセッサ
- メモリー
- 接続されている入出力装置

ここで提供されるのは、Starfire ドメインに割り当てられているシステムボードに関する情報だけです。プラットフォーム全体のハードウェア構成に関する情報は、Starfire プラットフォームの「詳細」ウィンドウで見ることができます。詳細は、61 ページの「Starfire プラットフォームの詳細ウィンドウ」を参照してください。

Starfire ドメインの資源構成

Starfire ドメインの「ハードウェア」タブのリソース表示は、その Starfire ドメインが含まれているプラットフォームに関する情報と、ハードウェア資源に関する要約情報を提供します (図 5-1)。

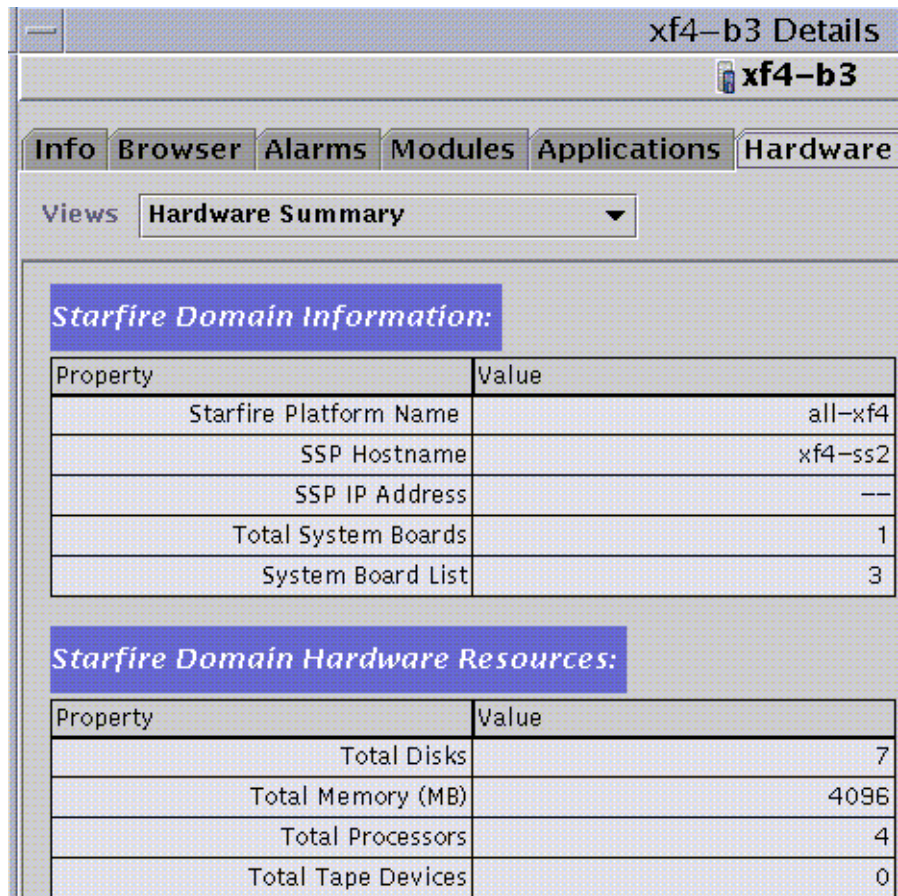


図 5-1 Starfire ドメイン情報とハードウェア資源の概要

表 5-2 は、「Starfire ドメイン情報」テーブルに含まれる属性をまとめています。

表 5-2 「Starfire ドメイン情報」の属性

属性	説明
Starfire プラットフォーム名	SSP ソフトウェアの設定中にプラットフォームに割り当てられた名前
SSP ホスト名	メイン SSP のホスト名
SSP IP アドレス	SSP の IP アドレス
総システムボード数	この Starfire ドメインに割り当てられているシステムボード数
システムボード一覧	この Starfire ドメインに割り当てられているシステムボードの一覧

表 5-3 は、「Starfire ドメインのハードウェア資源」テーブルに含まれる属性をまとめています。

表 5-3 Starfire ドメインのハードウェア資源

属性	説明
総ディスク数	システムに存在するディスク数
総メモリー容量 (MB)	総メモリー容量 (M バイト単位)
総プロセッサ数	プロセッサ数。このプロセッサ数には、POST によって構成されなかったプロセッサも含めて、ドメインに割り当てられているすべてのプロセッサが含まれます。
総テープデバイス数	システムに存在するテープデバイス数

Starfire ドメインのデバイスとの対話

Starfire ドメイン構成リーダーモジュールは、Starfire ドメインディスクやテープデバイスを定期的に関いて、直ちに閉じることによって、各装置が実際に存在することを確認します。この処理のために、次の状態が発生することがあります。

- デバイスがシステム構成に組み込まれているが、物理的に接続されていないか電源が切られている場合は、見つからないデバイスに対してデバイスオープンコールが発行されるため、Starfire ドメイン構成リーダーモジュールの動作に遅延が生じることがあります。これが原因で、ハードウェア構成情報の更新に時間がかかったり、Starfire ドメイン構成リーダーモジュールに黒い星状のアイコン (スプラットアイコン) が表示されることがあります。この問題を解決するには、`/dev/rdisk` および `/dev/rmt` から見つからないデバイスのエントリを削除するか、システムデバイスを再構成してください (`drvconfig (1M)` を参照)。
- この構成リーダーの活動によってボードデバイスが一時的にビジーになるために、動的再構成 (DR) の切り離し操作が失敗する場合があります。DR の切り離し操作が失敗した場合は、切り離し操作をやり直してください。通常は、再試行するだけで問題は解決します。

Starfire プラットフォームの詳細ウィンドウ

Starfire プラットフォーム用の Sun Management Center 詳細ウィンドウには、プラットフォーム全体のハードウェア情報が表示されます。このウィンドウには、次のタブが含まれます。これらのボタンについての詳細は『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』を参照してください。

- 情報
- ブラウザ
- アラーム
- ハードウェア

注 – Starfire サポート機能が Sun Management Center サーバーホストに正しくインストールされていない場合、Starfire プラットフォーム詳細ウィンドウにこれらのタブは表示されません。Starfire 用追加コンポーネントのインストールと設定を完了して、インストール後に Sun Management Center サーバープロセスを再起動していることを確認してください。

Starfire プラットフォームは、SSP 上の Sun Management Center プラットフォームエージェントによって監視されます。プラットフォームエージェントは監視作業専用であるため、Starfire プラットフォームの詳細ウィンドウからエージェントモジュールを読み込んだり、読み込みを解除したりすることはできません。

「ハードウェア」タブには、Starfire プラットフォーム構成リーダーモジュールが提供する情報が表示されます。この構成リーダーモジュールは、プラットフォームハードウェアに関する次のような最新情報を提供します。

- 電圧と温度
- すべてのボード
- 電源装置
- ファントレー
- 発生したハードウェアエラー数 (Recordstop、Arbstop、Watchdog エラーなど)

システムボードの構成に関する情報は、Starfire プラットフォームおよび Starfire ドメインの両方の構成リーダーモジュールによって提供されます。両者の間で情報が重複しているため、Starfire ドメインおよび Starfire プラットフォームの両方の「詳細」ウィンドウに、1 つの状態に対する同じアラームが報告されることがあります。このため、どちらの詳細ウィンドウを表示しているかに関係なく、早期にアラームの発生を知ることができます。

Starfire プラットフォーム構成リーダーモジュールは、プラットフォームに接続されている入出力デバイスの構成情報を提供しません。入出力デバイスの情報を見るには、調べようとするデバイスの存在する Starfire ドメインの「詳細」ウィンドウを開いてください。

完全なプラットフォーム構成の確認

SSP からだけでは、Starfire プラットフォームの完全なハードウェア構成を確認することはできません。Starfire プラットフォーム構成リーダーモジュールは、Starfire ドメイン構成リーダーモジュールに次のシステムボード情報を問い合わせます。

- メモリー構成
- 入出力構成
- プロセッサの詳細
- 電源投入時セルフテスト (POST) に失敗したコンポーネント

プラットフォームの構成リーダーが Starfire ドメイン構成リーダーの情報にアクセスできない場合、その Starfire ドメインに割り当てられているシステムノードの詳細構成は不明になります。



注意 – Starfire プラットフォーム構成リーダーは、SNMP を使用して Starfire ドメインの情報にアクセスします。属性エディタを使用して、Starfire ドメイン構成リーダーモジュールのセキュリティ属性を変更し、「パブリック」な SNMP コミュニティによるアクセスを排除している場合、プラットフォーム構成リーダーモジュールは Starfire ドメインの構成情報にアクセスできません。

詳細なシステムボード構成を確認した後は、Starfire ドメイン構成リーダーにアクセスできなくなっても、Starfire プラットフォームの「詳細」ウィンドウからその情報を得ることができます。構成が不明なハードウェアコンポーネントにはすべて、不明であることを示すマークが付きます。

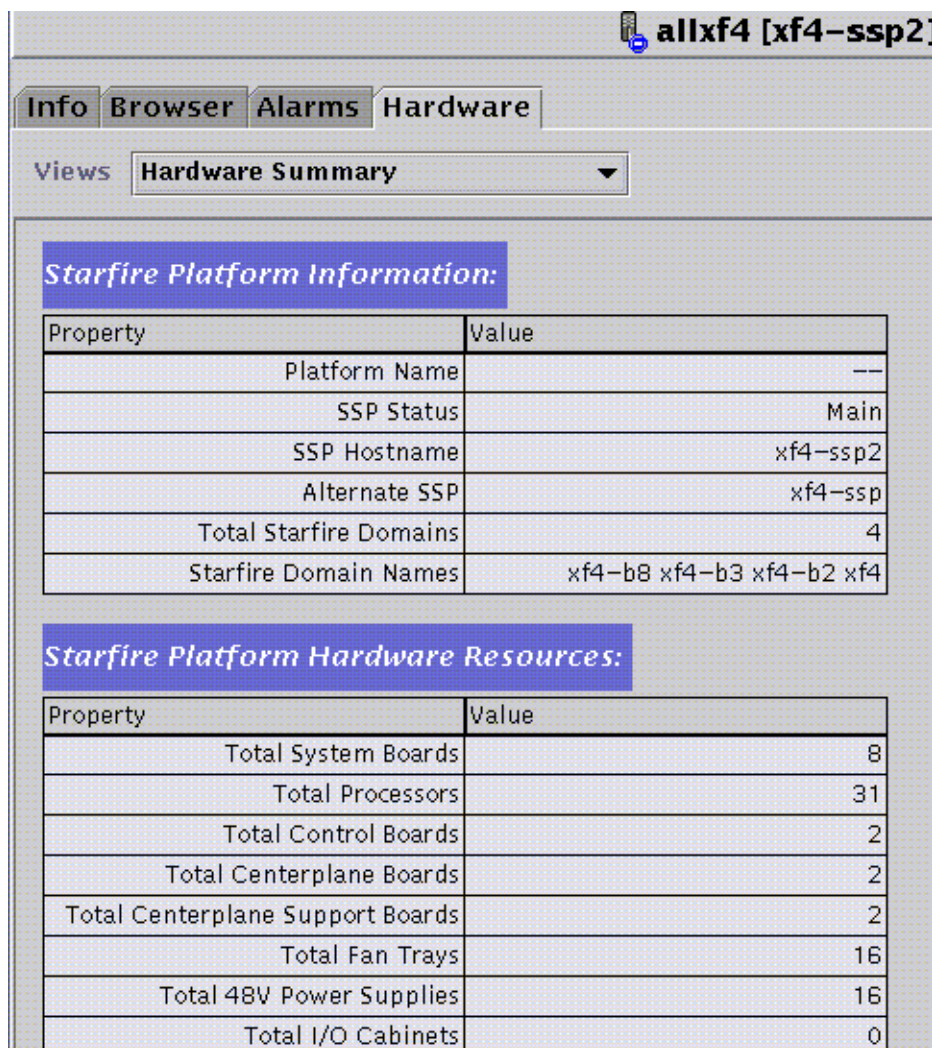
Starfire ドメインから収集されたシステムボード構成の情報はキャッシュに書き込まれ、タイムスタンプが記録されるため、その情報がどのくらい新しいか確認できます。この情報は定期的に調べられ、変更があると更新されます。ただし、次のいずれかのイベントが発生した場合、この構成情報は破棄されます。

- Starfire プラットフォームからシステムボードが物理的に取り外された。
- Starfire プラットフォームエージェントが停止した。

注 – Starfire プラットフォーム構成リーダーモジュールが最新の Starfire ドメイン情報に更新されるまでには、数分の遅れが生じることがあります。

Starfire プラットフォームの資源構成

Starfire ドメインの「ハードウェア」タブのリソース表示は、Starfire プラットフォームに関するホストの情報と、プラットフォームのハードウェア構成に関する要約情報を提供します (図 5-2)。



The screenshot shows a web interface for a Starfire platform. At the top right, the host name is "allxf4 [xf4-ssp2]". Below this are tabs for "Info", "Browser", "Alarms", and "Hardware", with "Hardware" selected. A "Views" dropdown menu is set to "Hardware Summary".

Starfire Platform Information:

Property	Value
Platform Name	--
SSP Status	Main
SSP Hostname	xf4-ssp2
Alternate SSP	xf4-ssp
Total Starfire Domains	4
Starfire Domain Names	xf4-b8 xf4-b3 xf4-b2 xf4

Starfire Platform Hardware Resources:

Property	Value
Total System Boards	8
Total Processors	31
Total Control Boards	2
Total Centerplane Boards	2
Total Centerplane Support Boards	2
Total Fan Trays	16
Total 48V Power Supplies	16
Total I/O Cabinets	0

図 5-2 Starfire プラットフォーム情報とハードウェア資源の概要

表 5-4 は、「Starfire プラットフォーム情報」テーブルに含まれる属性をまとめています。

表 5-4 「Starfire プラットフォーム情報」の属性

属性	説明
プラットフォーム名	SSP ソフトウェアの設定時にプラットフォームに割り当てられた名前
SSP の状態	このプラットフォームトポロジオブジェクトに対応する SSP (メインまたは予備) の状態
SSP ホスト名	このプラットフォームトポロジオブジェクトに対応する SSP のホスト名
代替 SSP	このプラットフォーム用の代替 SSP のホスト名 (設定されている場合)
総 Starfire ドメイン数	このプラットフォームに構成されている Starfire ドメイン数
Starfire ドメイン名	このプラットフォームに構成されているドメインの一覧

表 5-5 は、「Starfire プラットフォームハードウェア資源」テーブルに含まれる属性をまとめています。

表 5-5 Starfire プラットフォームのハードウェア資源 :

属性	説明
総システムボード数	システムボード数
総プロセッサ数	プロセッサ数
総制御ボード数	制御ボード数
総センタープレーンボード数	センタープレーンボード数
総センタープレーンサポートボード数	センタープレーンサポートボード数
総ファントレイ数	ファントレイ数
総 48V 電源装置数	電源装置数
総入出力キャビネット数	入出力キャビネット数

Starfire の物理表示と論理表示

図 5-3 に示すように、Starfire ドメインの物理表示は Starfire プラットフォームの物理表示と異なり、写真画質のシャーン画像にグレー表示の部分があります。この違いは、Starfire ドメインからは、Starfire ドメインのシステムボード情報しか入手できないことを示しています。



図 5-3 Starfire ドメインと Starfire プラットフォームの物理表示

注 – プラットフォーム全体の情報が必要な場合は、Starfire プラットフォームの物理表示を使用してください。

Starfire プラットフォームの物理表示では、システムボード上のメモリーおよび入出力モジュールのうち存在が不明なものに関しては、疑問符インジケータ付きで「透かし表示」されます (図 5-4)。



図 5-4 疑問符インジケータの付いた不明なモジュール

物理表示および論理表示では、アラームが開状態のコンポーネントが強調表示されます。ただし、物理表示や論理表示の属性の詳細情報では、どの属性がアラーム状態にあるのかは明示されません。多くの **Starfire** コンポーネントの特性は、規則と潜在的なアラームで構成される、複数の属性により定義されます。アラームが開状態のコンポーネントの属性を確認するには、詳細ウィンドウの「アラーム」または「ブラウザ」タブを調べてください。

物理表示には、プラットフォームのシャーン内に見えるコンポーネントだけ表示されます。たとえばセンタープレーンボードや入出力デバイスは物理表示されません。このようなデバイスの情報を表示するには、論理表示またはブラウザ表示を使用します。

SSP の「詳細」ウィンドウ

SSP の「詳細」ウィンドウには、**Starfire** サーバーに固有の変更は反映されません。2 つの追加ローカルアプリケーションモジュール、SSP 状態および検出テーブルは、**Starfire** プラットフォームの設定時に SSP エージェントに読み込まれるように設定されています。これらのモジュールは、SSP のメインまたは予備の状態を表示し、**Starfire** 複合オブジェクト情報を提供します。

注 – SSP 状態モジュールと検出テーブルが読み込まれていない場合は、**Starfire** プラットフォームを再設定してください。

第6章

Starfire 用エージェントモジュール

この章では、Starfire 用追加コンポーネントに含まれる次のエージェントモジュールに関する詳細を説明します。

- Starfire ドメインの構成リーダー (Config-Reader4u1D)
- Starfire プラットフォームの構成リーダー (Config-Reader4u1P)
- SSP 状態モジュール (sspStatus)

この章ではまた、Starfire ドメインの構成リーダーおよび Starfire プラットフォームの構成リーダーの規則しきい値を変更する具体的な方法も説明します。

ハードウェア、オペレーティング環境、ローカルアプリケーション、遠隔システムなどのシステムの構成要素を監視する、Sun Management Center の主要モジュールについては、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』の付録 C および付録 D を参照してください。

「属性エディタ」を使用してアラームしきい値を設定する方法に関する全般的な情報は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』の第 10 章「属性エディタの使用」に記載しています。

モジュール属性

この章では、各モジュールのすべての属性を表にまとめて、簡単な説明を付けています。属性が Sun Management Center の規則の監視対象になっている場合は、表にその規則名も示しています。Sun Management Center の規則については、98 ページの「Starfire 構成リーダーの規則」を参照してください。

「現場交換可能」属性とは、そのコンポーネントが現場で交換可能であることを意味します。

「ホットプラグ」属性とは、システムを停止しないで、プラットフォームから構成要素を取り外せることを意味します。

グラフ表示可能な属性については、属性の説明中にそのことを記しています。グラフ表示属性についての詳細は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』の第9章を参照してください。

注 – Sun Management Center ソフトウェアが、特定の属性の値をいつでも得られるわけではありません。値が不明の場合、その属性値は -- と表示されます。

Starfire ドメイン構成リーダーモジュール

Starfire ドメイン構成リーダーモジュールは、Starfire ドメインのハードウェア構成情報を提供します。Starfire ドメイン用追加コンポーネントの設定時に、このモジュールは Starfire ドメインエージェントに自動的に読み込まれるように設定され、ブラウザのハードウェアアイコンの下に表示されます。

モジュール再表示間隔

Sun Management Center エージェントモジュールは定期的に自身のデータを再表示し、ブラウザは定期的にエージェントデータの最新の値を読み出します。この定期的な再表示と更新の組み合わせによって、詳細ウィンドウに最新のモジュール情報が表示されます。

Starfire ドメイン構成リーダーモジュールは 1 分おきに再表示されます。「システム」フォルダを再表示すると、すべてのモジュールデータが再表示されます。ブラウザ表示では、この間隔に関係なく、ただちにモジュールデータの再表示を要求できます。詳細は、69 ページの「Starfire ドメイン構成リーダーのデータを再表示する」を参照してください。

モジュールが定期的にデータを再表示する間隔は変更することができます。この間隔設定により、システム構成に加えられた変更の通知をタイムリーに受ける処理と、システム資源を使用して定期的に再表示する処理のバランスを取ります。詳細は、69 ページの「Starfire ドメイン構成リーダーの再表示間隔を変更する」を参照してください。

▼ Starfire ドメイン構成リーダーのデータを再表示する

1. Starfire ドメインの「詳細」ウィンドウを開き、「ブラウザ」タブを選択します。
2. 「システム」フォルダから任意の属性を選択し、そのデータを再表示します。
この操作により、Starfire ドメイン構成リーダーモジュールはその全データを再表示します。
3. 「システム」フォルダに含まれていない情報を表示するには、ブラウザからその属性を選択し、データを再表示します。
この操作によって、ブラウザにその属性の最新の値が再表示されます。

▼ Starfire ドメイン構成リーダーの再表示間隔を変更する

1. Starfire ドメインの「詳細」ウィンドウを開き、「ブラウザ」タブを選択します。
2. 「システム」フォルダから任意の属性を選択し、「属性エディタ」を起動します。



注意 – 再表示間隔に、デフォルト値より小さな値を設定しないでください。

3. 「再表示」タブを選択し、再表示間隔を変更します。

Starfire ドメイン構成リーダーの属性

この節では、各 Starfire ドメイン構成リーダーオブジェクトの表示可能な属性を表にまとめています。

システム

次の表は Starfire ドメイン構成リーダーのシステム関連の属性をまとめています (表 6-1)。

表 6-1 Starfire ドメイン構成リーダーのシステム属性

属性	規則 (ある場合)	説明
名前		system
ホスト名		Starfire ドメインのホスト名
ホスト ID		ホスト識別番号
オペレーティングシステム		Starfire ドメインで動作しているオペレーティング環境
オペレーティングシステムのバージョン		使用されているオペレーティング環境のバージョン
システムクロック (MHz)		クロック周波数 (メガヘルツ単位)
アーキテクチャー		マシンのアーキテクチャー (SPARC)
マシンタイプ		マシンタイプ (sun4u)
プラットフォームタイプ		プラットフォームタイプ (SUNW、Ultra-Enterprise10000)
最終更新		この構成情報の最終更新日時
総ディスク数		システムに存在するディスク数
総メモリー容量 (MB)		総メモリー容量 (メガバイト単位)
総プロセッサ数		プロセッサ数。このプロセッサ数には、POST によって構成されなかったプロセッサも含めて、ドメインに割り当てられているすべてのプロセッサが含まれます。
総テープデバイス数		システムに存在するテープデバイス数

Starfire プラットフォーム

次の表は Starfire ドメイン構成リーダーの Starfire プラットフォーム関連の属性をまとめています (表 6-2)。

表 6-2 Starfire ドメイン構成リーダーの Starfire プラットフォーム属性

属性	規則 (ある場合)	説明
名前		starfire_platform
Starfire プラット フォーム名		この Starfire ドメインを含む Starfire プラットフォーム 名
SSP ホスト名		Starfire プラットフォームのメイン SSP の名前
SSP IP アドレス		Starfire プラットフォームのメイン SSP の IP アドレス
総システムボード数		この Starfire ドメインに割り当てられているシステム ボード数
システムボード一覧		この Starfire ドメインに割り当てられているシステム ボードのリスト

システムボード

次の表は Starfire ドメイン構成リーダーのシステムボード関連の属性をまとめています (表 6-3)。

表 6-3 Starfire ドメイン構成リーダーのシステムボード属性

属性	規則 (ある場合)	説明
名前		system-board(<i>n</i>)。 <i>n</i> はシステムボード番号
システムボード		システムボード番号
POST 状態	e10kpost	システムボード全体の POST 状態
メモリーサイズ (MB)		システムボード上のメモリー容量 (メガバイト単位)
プロセッサ		システムボード上のプロセッサ数
入出力アダプタ		システムボード上の入出力アダプタ数
現場交換可能		はい
ホットプラグ		はい

システムボードの ASIC の POST 状態

次の表は Starfire ドメイン構成リーダーのシステムボードの ASIC の POST 状態関連の属性をまとめています (表 6-4)。

表 6-4 Starfire ドメイン構成リーダーのシステムボードの ASIC の POST 状態属性

属性	規則 (ある場合)	説明
名前		ASIC(<i>n</i>)。 <i>n</i> はシステムボード番号
システムボード		システムボード番号
CIC0	e10kpost	コーヒーレンシインタフェースコントローラ 0 ASIC、より一般には、このシステムボードとグローバルアドレスバス 0 との連携機能の POST 状態
CIC1	e10kpost	コーヒーレンシインタフェースコントローラ 1 ASIC、より一般には、このシステムボードとグローバルアドレスバス 1 との連携機能の POST 状態
CIC2	e10kpost	コーヒーレンシインタフェースコントローラ 2 ASIC、より一般には、このシステムボードとグローバルアドレスバス 2 との連携機能の POST 状態
CIC3	e10kpost	コーヒーレンシインタフェースコントローラ 3 ASIC、より一般には、このシステムボードとグローバルアドレスバス 3 との連携機能の POST 状態
LDPATH0	e10kpost	ローカルデータルーターの下位 72 ビット ASIC、より一般には、このシステムボードとグローバルデータバス 0 との連携機能の POST 状態
LDPATH1	e10kpost	ローカルデータルーターの上位 72 ビット ASIC、より一般には、このシステムボードとグローバルデータバス 1 との連携機能の POST 状態
PC0	e10kpost	ポートコントローラ 0 ASIC の POST 状態
PC1	e10kpost	ポートコントローラ 1 ASIC の POST 状態
PC2	e10kpost	ポートコントローラ 2 ASIC の POST 状態
XDB0	e10kpost	データバッファ 0 ASIC の POST 状態
XDB1	e10kpost	データバッファ 1 ASIC の POST 状態
XDB2	e10kpost	データバッファ 2 ASIC の POST 状態
XDB3	e10kpost	データバッファ 3 ASIC の POST 状態

プロセッサモジュール

次の表は Starfire ドメイン構成リーダーのプロセッサモジュール関連の属性をまとめています (表 6-5)。

表 6-5 Starfire ドメイン構成リーダーのプロセッサモジュール属性

属性	規則 (ある場合)	説明
名前		cpu-unit(<i>n</i>)。 <i>n</i> はプロセッサ ID
プロセッサモジュール		<i>n.m</i> 。 <i>n</i> はシステムボード番号、 <i>m</i> はシステムボードのプロセッサモジュール番号 (0 ~ 3)。
プロセッサ ID		プロセッサ ID
POST 状態	e10kpost	このプロセッサの POST 状態
プロセッサの状態	e10kproc	プロセッサのオンライン / オフライン状態
クロック (MHz)		プロセッサのクロック周波数 (メガヘルツ単位)
E キャッシュサイズ (MB)		外部キャッシュサイズ (メガバイト単位)
D キャッシュサイズ (KB)		D キャッシュサイズ (キロバイト単位)
I キャッシュサイズ (KB)		命令キャッシュサイズ (キロバイト単位)
プロセッサタイプ		プロセッサのタイプ
モデル		プロセッサのモデルタイプ
現場交換可能		はい

メモリーモジュール

次の表は Starfire ドメイン構成リーダーのメモリーモジュール関連の属性をまとめています (表 6-6)。

表 6-6 Starfire ドメイン構成リーダーのメモリーモジュール属性

属性	規則 (ある場合)	説明
名前		mem-unit(<i>n</i>)。 <i>n</i> はメモリーモジュール番号
メモリーモジュール		このメモリーモジュールが搭載されているシステム ボード番号
POST 状態	e10kpost	このメモリーモジュールの POST 状態
メモリーサイズ (MB)		メモリーモジュールサイズ (メガバイト単位)
現場交換可能		はい

メモリーグループ

次の表は Starfire ドメイン構成リーダーのメモリーグループ関連の属性をまとめています (表 6-7)。

表 6-7 Starfire ドメイン構成リーダーのメモリーグループ属性

属性	規則 (ある場合)	説明
名前		mem-group(<i>n.m</i>)。 <i>n.m</i> はメモリーグループ番号
メモリーグループ		<i>n.m</i> 。 <i>n</i> はメモリーモジュール番号、 <i>m</i> はメモリーグ ループ番号 (0 ~ 3)。
POST 状態	e10kpost	このメモリーグループの POST 状態
メモリーサイズ (MB)		メモリーグループのサイズ (メガバイト単位)

DIMM テーブル

次の表は Starfire ドメイン構成リーダーの DIMM テーブル関連の属性をまとめています (表 6-8)。

表 6-8 Starfire ドメイン構成リーダーの DIMM テーブル属性

属性	規則 (ある場合)	説明
名前		<code>dimm(i.j.k)</code> 。 <i>i.j.k</i> は DIMM 番号
DIMM		<i>i.j.k</i> 。 <i>i</i> はメモリーモジュール番号、 <i>j</i> はメモリーグループ番号、 <i>k</i> は DIMM 番号 (0 ~ 7)。
ECC エラー	e10kmerr	(グラフ表示可能) <code>/var/adm/messages</code> から検出された、この DIMM の ECC エラー数
メモリーサイズ (MB)		DIMM サイズ (メガバイト単位)
ボード参照		メザニン式メモリーモジュールボード上にシルクスクリーン処理された部品位置
現場交換可能		はい

入出力モジュール

次の表は Starfire ドメイン構成リーダーの入出力モジュール関連の属性をまとめています (表 6-9)。

表 6-9 Starfire ドメイン構成リーダーの入出力モジュール属性

属性	規則 (ある場合)	説明
名前		<code>io-unit(n)</code> 。 <i>n</i> は入出力モジュール番号
入出力モジュール		入出力モジュールが装着されているシステムボード番号
入出力モジュールタイプ		入出力モジュールの種類 (SBus または PCI)。 POST によってボードの入出力アダプタまたはコントローラが構成されなかった場合は、-- (不明) と表示されます。
入出力アダプタ		この入出力モジュールの入出力アダプタ数
現場交換可能		はい

入出力コントローラ

次の表は Starfire ドメイン構成リーダーの入出力コントローラ関連の属性をまとめています (表 6-10)。

表 6-10 Starfire ドメイン構成リーダーの入出力コントローラ属性

属性	規則 (ある場合)	説明
名前		POST によって入出力コントローラが構成された場合は <code>sbus(<i>n</i>)</code> または <code>pci(<i>n</i>)</code> で、 <i>n</i> はカーネルによってコントローラに割り当てられたインスタンス番号。POST によって入出力コントローラが構成されなかった場合は、 <code>io-controller(<i>n.m</i>)</code> で、 <i>n.m</i> は入出力コントローラ番号。
入出力コントローラ		<i>n.m</i> 。 <i>n</i> は入出力モジュール番号、 <i>m</i> はホストバスコントローラ番号 (0 または 1)
POST 状態	e10kpost	この入出力コントローラの POST 状態
UPA ポート ID		この入出力コントローラの UPA ポート ID (16 進数)
クロック (MHz)		この入出力コントローラのクロック周波数 (メガヘルツ単位)
モデル		モデル名
バージョン番号		バージョン番号

注 – 入出力コントローラテーブルには、空の入出力アダプタスロットに対する入出力コントローラは含まれません。

入出力アダプタ

次の表は Starfire ドメイン構成リーダーの入出力アダプタ関連の属性をまとめています (表 6-11)。

表 6-11 Starfire ドメイン構成リーダーの入出力アダプタ属性

属性	規則 (ある場合)	説明
名前		io-adaptor(<i>ij.k</i>)。 <i>ij.k</i> は入出力アダプタ番号
入出力アダプタ		<i>ij.k</i> 。 <i>i</i> は入出力モジュール番号、 <i>j</i> は入出力コントローラ番号、 <i>k</i> はアダプタのスロット番号 (0 または 1)
POST 状態	e10kpost	この入出力アダプタの POST 状態
モデル		この入出力アダプタのモデル名 (判明した場合のみ)
デバイス概要		この入出力アダプタがサポートする入出力デバイスドライバとデバイスの要約情報
ディスク数		この入出力アダプタがサポートするディスク数
ネットワーク数		この入出力アダプタがサポートする構成済みネットワークインタフェース数
テープ数		この入出力アダプタがサポートするテープデバイス数
現場交換可能		はい

入出力デバイスドライバ

次の表は Starfire ドメイン構成リーダーの入出力デバイスドライバ関連の属性をまとめています (表 6-12)。

表 6-12 Starfire ドメイン構成リーダーの入出力デバイスドライバ属性

属性	規則 (ある場合)	説明
名前		デバイスドライバ名とカーネル割り当てのインスタンス番号 (例: <code>isp(2)</code>)。 インスタンス番号が割り当てられていない場合は、デバイス名とレジスタ属性が表示されます。
入出力アダプタ		このデバイスの入出力アダプタ番号
デバイスタイプ		SCSI、network などのデバイスタイプ (判明した場合のみ)

テープデバイス

次の表は Starfire ドメイン構成リーダーのテープデバイス関連の属性をまとめています (表 6-13)。

表 6-13 Starfire ドメイン構成リーダーのテープデバイス属性

属性	規則 (ある場合)	説明
名前		デバイス名とカーネル割り当てのインスタンス番号 (例: st (0))
テープ名		このテープデバイスの /dev 名
入出力アダプタ		このデバイスの入出力アダプタ番号
状態		「ok」または「drive present , but busy」などの現在の状態
テープ警告	e10ktwrn	(グラフ表示可能) /var/adm/messages から検出された、このテープのテープ警告数
モデル		このテープデバイスのモデル名 (判明した場合のみ)
ターゲット番号		テープのターゲット番号
現場交換可能		はい

ネットワークデバイス

次の表は Starfire ドメイン構成リーダーのネットワークデバイス関連の属性をまとめています (表 6-14)。

表 6-14 Starfire ドメイン構成リーダーのネットワークデバイス属性

属性	規則 (ある場合)	説明
名前		デバイスドライバ名とカーネル割り当てのインスタンス番号 (例: le (0))。インスタンス番号が割り当てられていない場合は、デバイス名とレジスタ属性が表示されます。
インタフェース名		ネットワークインタフェース名
入出力アダプタ		このデバイスの入出力アダプタ番号

表 6-14 Starfire ドメイン構成リーダーのネットワークデバイス属性 (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
記号名		このネットワークインタフェースに関連付けられているホスト名
インターネットアドレス		このネットワークインタフェースの IP アドレス
Ethernet アドレス		このネットワークインタフェースの Ethernet アドレス

ディスクデバイス

次の表は Starfire ドメイン構成リーダーのディスクデバイス関連の属性をまとめています (表 6-15)。

表 6-15 Starfire ドメイン構成リーダーのディスクデバイス属性

属性	規則 (ある場合)	説明
名前		装置名とカーネル割り当てのインスタンス番号 (例: sd(0))
ディスク名		このディスクの /dev 名
入出力アダプタ		このデバイスの入出力アダプタ番号
ディスク警告	e10kdwrn	(グラフ表示可能) /var/adm/messages から検出された、このディスクのディスク警告数
ターゲット番号		ディスクのターゲット番号
現場交換可能		はい

Starfire プラットフォーム構成リーダー モジュール

Starfire プラットフォーム構成リーダーモジュールは、Starfire プラットフォーム全体のハードウェア構成に関する情報を提供します。Starfire プラットフォーム用追加コンポーネントの設定時に、このモジュールは、SSP プラットフォームエージェントに自動的に読み込まれるように設定され、「ブラウザ」ハードウェアアイコンの下に表示されます。

Starfire プラットフォーム構成リーダーモジュールは自動的に、SSP が予備の SPP になると無効になり、SSP がメイン SSP になると有効になります。モジュールを使用不可にすると、プラットフォーム情報は提供されません。

モジュールの再表示

Starfire プラットフォーム構成リーダーモジュールは、SSP snmpd エージェントと Starfire ドメイン構成リーダーモジュールの 2 つの主要な情報源からデータを収集します。このモジュールは SNMP トラップを監視して、システム構成の変更通知を直ちに受け取ります。SNMP トラップが検出されない場合は、定期的な間隔で構成情報を更新します。

一度に大量のデータを収集するとシステム資源の消費量が多くなりすぎます。このため、プラットフォームエージェントは一度にすべてのデータを収集しません。システム構成によって異なりますが、モジュールデータの完全な再表示には、3 分から 12 分の時間がかかります。

プラットフォームの「詳細」ウィンドウのブラウザを使用すると任意のモジュール属性を再表示できますが、この場合にプラットフォームエージェントから読み出されるのは、その属性の現在の値だけです。強制的にデータを再計算することはありません。

96 ページの「モデル再表示」で説明している再表示モデル属性を使用して、SSP または Starfire ドメインモデルデータの再表示を開始できます。

Starfire プラットフォーム構成リーダーの属性

この節の表の属性の説明には、Starfire ドメイン構成リーダーから収集されたプラットフォーム構成リーダー情報であることを明記しています。Starfire ドメイン構成リーダーから収集した情報を含むテーブルには、その情報を Starfire ドメインから収集した日時を示すタイムスタンプを値として持つキャッシュ更新属性があります。

注 – Starfire ドメインのデータが頻繁に変更されることはなく、Starfire ドメインの構成情報は変更があった場合にのみ更新されるため、データは最新であっても、キャッシュ更新のタイムスタンプが古く思われることがあります。

キャッシュ更新属性の値が -- の場合、その表の行の Starfire ドメイン情報はありません。

注 – 下記の表中の °C は、その温度が摂氏表記であることを示します。

システム

次の表は Starfire プラットフォーム構成リーダーのシステム関連の属性をまとめています (表 6-16)。

表 6-16 Starfire プラットフォーム構成リーダーのシステム属性

属性	規則 (ある場合)	説明
名前		system
プラットフォーム名		SSP ソフトウェアの設定中にこの Starfire プラットフォームに割り当てられた名前
周囲温度 (°C)	e10ktemp	(グラフ表示可能) 主制御ボード上のセンサーによって測定された周囲温度
総 Starfire ドメイン数		構成されている Starfire ドメイン数
総システムボード数		システムボード数
総プロセッサ数		プロセッサ数
総制御ボード数		制御ボード数
総センタープレーンボード数		センタープレーンボード数
総センタープレーンサポートボード数		センタープレーンサポートボード数
総入出力キャビネット数		入出力キャビネット数
総ファントレー数		ファントレー数
総 48V 電源装置数		電源装置数
主制御ボード		主制御ボード番号
SysClk 制御ボード		この制御ボードでシステムクロックを提供
システムクロック周波数 (MHz)		クロック周波数 (メガヘルツ単位)
最終更新		このシステムオブジェクト構成情報の最終更新日時

システムボード

次の表は Starfire プラットフォーム構成リーダーのシステムボード関連の属性をまとめています (表 6-17)。

表 6-17 Starfire プラットフォーム構成リーダーのシステムボード属性

属性	規則 (ある場合)	説明
名前		system-board(n)。 n はシステムボード番号
システムボード		システムボード番号
電源の状態	e10kpowr	ボード電源のオン / オフ状態
Starfire ドメイン		このボードが割り当てられている Starfire ドメイン名。Starfire ドメインに割り当てられていない場合は、-- が表示されます。
POST 状態	e10kpost	(Starfire ドメイン) このシステムボード全体の POST 状態
メモリーサイズ (MB)		(Starfire ドメイン) このシステムボードのメモリーサイズ (メガバイト単位)
プロセッサ		システムボード上のプロセッサ数
入出力アダプタ		(Starfire ドメイン) このシステムボード上の入出力アダプタ数
CIC0 温度 (°C)	e10ktemp	(グラフ表示可能) CIC0 ASIC の温度
CIC1 温度 (°C)	e10ktemp	(グラフ表示可能) CIC1 ASIC の温度
MC 温度 (°C)	e10ktemp	(グラフ表示可能) MC ASIC の温度
XDB2 温度 (°C)	e10ktemp	(グラフ表示可能) XDB2 ASIC の温度
XDB3 温度 (°C)	e10ktemp	(グラフ表示可能) XCB3 ASIC の温度
Proc0 温度 (°C)	e10ktemp	(グラフ表示可能) プロセッサ装置 0 の温度
Proc1 温度 (°C)	e10ktemp	(グラフ表示可能) プロセッサ装置 1 の温度
Proc2 温度 (°C)	e10ktemp	(グラフ表示可能) プロセッサ装置 2 の温度
Proc3 温度 (°C)	e10ktemp	(グラフ表示可能) プロセッサ装置 3 の温度
DC 3.3V 温度 (°C)	e10ktemp	(グラフ表示可能) ボードの DC 5V 電源装置の温度
VDC 主温度 (°C)	e10ktemp	(グラフ表示可能) ボードの VDC 主電源装置の温度
DC 5V 温度 (°C)	e10ktemp	(グラフ表示可能) システムボードの DC 5V 電源装置の温度
DC 3.3V 電圧 (V)	e10kvolt	(グラフ表示可能) ボードの DC +1.5V 電源の電圧レベル

表 6-17 Starfire プラットフォーム構成リーダーのシステムボード属性 (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
DC 3.3V/HK 電圧 (V)	e10kvolt	(グラフ表示可能) ボードの DC +1.5V 電源の電圧レベル
DC 3.3V/HK 電圧 (V)	e10kvolt	(グラフ表示可能) ボードの DC +1.5V 電源の電圧レベル
VDC 主電圧 (V)	e10kvolt	(グラフ表示可能) ボードの VDC 主電源の電圧レベル
DC 3.3 V/HK 電圧 (V)	e10kvolt	(グラフ表示可能) ボードの DC 3.3V ハウスキーピング電源の電圧レベル
シリアル番号		このシステムボードのシリアル番号。この情報の収集方法のため、システムボードの温度調整が行われていなかった場合は、-- が表示されます。
キャッシュ更新		この Starfire ドメインデータの最終更新日時
現場交換可能		はい
ホットプラグ		はい

システムボードの ASIC の POST 状態

システムボードの ASIC の POST 状態テーブルの属性値は、対応する Starfire ドメイン構成リーダーモジュールから読み出されます。属性についての説明は、表 6-4 を参照してください。追加のキャッシュ更新属性は、Starfire ドメインから情報を収集した日時を示します。

プロセッサモジュール

次の表は Starfire プラットフォーム構成リーダーのプロセッサモジュール関連の属性をまとめています (表 6-18)。

表 6-18 Starfire プラットフォーム構成リーダーのプロセッサモジュール属性

属性	規則 (ある場合)	説明
名前		cpu-unit(<i>n</i>)。 <i>n</i> はプロセッサ ID
プロセッサモジュール		<i>n.m</i> 。 <i>n</i> はシステムボード番号、 <i>m</i> はシステムボード上のプロセッサモジュール番号 (0 ~ 3)
プロセッサ ID		プロセッサ ID

表 6-18 Starfire プラットフォーム構成リーダーのプロセッサモジュール属性 (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
POST 状態	e10kpost	(Starfire ドメイン) このプロセッサの POST 状態
プロセッサの状態	e10kproc	(Starfire ドメイン) プロセッサのオンライン / オフライン状態
クロック (MHz)		(Starfire ドメイン) プロセッサのクロック周波数 (メガヘルツ単位)
E キャッシュサイズ (MB)		(Starfire ドメイン) 外部キャッシュサイズ (メガバイト単位)
D キャッシュサイズ (KB)		(Starfire ドメイン) データキャッシュサイズ (キロバイト単位)
I キャッシュサイズ (KB)		(Starfire ドメイン) 命令キャッシュサイズ (キロバイト単位)
プロセッサタイプ		(Starfire ドメイン) プロセッサのタイプ
モデル		(Starfire ドメイン) プロセッサのモデルタイプ
キャッシュ更新		この Starfire ドメインデータの最終更新日時
現場交換可能		はい

メモリーモジュール

Starfire ドメインからシステムボードの構成情報を入手できない場合、ボードにメモリーモジュールが装着されているかどうか、またメモリーモジュールのテーブルエントリが作成されているかどうかは不明になります。この場合、メモリーモジュールの属性の値は -- となり、情報が入手できないことを示します。

Starfire ドメイン情報が入手可能になると、テーブルが更新されます。メモリーモジュールが存在しない場合、そのメモリーモジュールのテーブルエントリは削除されます。

次の表は Starfire プラットフォーム構成リーダーのメモリーモジュール関連の属性をまとめています (表 6-19)。

表 6-19 Starfire プラットフォーム構成リーダーのメモリーモジュール属性

属性	規則 (ある場合)	説明
名前		mem-unit(<i>n</i>)。 <i>n</i> はメモリーモジュール番号
メモリーモジュール		このメモリーモジュールが搭載されているシステム ボード番号
POST 状態	e10kpost	(Starfire ドメイン) このメモリーモジュールの POST 状 態
メモリーサイズ (MB)		(Starfire ドメイン) メモリーモジュールサイズ (メガバ イト単位)
キャッシュ更新		この Starfire ドメインデータの最終更新日時
現場交換可能		はい

メモリーグループ

システムボードの ASIC の POST 状態テーブルの属性値は、対応する Starfire ドメイン構成リーダーモジュールから読み出されます。属性についての説明は、表 6-7 を参照してください。追加のキャッシュ更新属性は、その Starfire ドメインから情報を収集した日時を示します。

DIMM テーブル

システムボードの ASIC の POST 状態テーブルの属性値は、対応する Starfire ドメイン構成リーダーモジュールから読み出されます。属性についての説明は、表 6-8 を参照してください。追加のキャッシュ更新属性は、その Starfire ドメインから情報を収集した日時を示します。

入出力モジュール

Starfire ドメインからシステムボードの構成情報を入手できない場合、ボードに入出力モジュールが装着されているかどうか、また入出力モジュールのテーブルエントリが作成されているかどうかは不明になります。この場合、入出力モジュールの属性の値は -- になり、情報が入手できないことを示します。

Starfire ドメイン情報が入手可能になると、テーブルが更新されます。入出力モジュールが存在しない場合、その入出力モジュールのテーブルエントリは削除されず。

次の表は Starfire プラットフォーム構成リーダーの入出力モジュール関連の属性をまとめています (表 6-20)。

表 6-20 Starfire プラットフォーム構成リーダーの入出力モジュール属性

属性	規則 (ある場合)	説明
名前		io-unit(<i>n</i>)。 <i>n</i> は入出力モジュール番号
入出力モジュール		入出力モジュールが装着されているシステムボード番号
入出力モジュールタイプ		(Starfire ドメイン) 入出力モジュールタイプ (SBus または PCI)。 POST によってボードの入出力アダプタまたはコントローラが構成されなかった場合は、-- (不明) と表示されます。
入出力アダプタ		(Starfire ドメイン) この入出力モジュールの入出力アダプタ数
キャッシュ更新		この Starfire ドメインデータの最終更新日時
現場交換可能		はい

入出力コントローラ

システムボードの ASIC の POST 状態テーブルの属性値は、対応する Starfire ドメイン構成リーダーモジュールから読み出されます。属性についての説明は、表 6-10 を参照してください。追加のキャッシュ更新属性は、その Starfire ドメインから情報を収集した日時を示します。

入出力アダプタ

システムボードの ASIC の POST 状態テーブルの属性値は、対応する Starfire ドメイン構成リーダーモジュールから読み出されます。属性についての説明は、表 6-11 を参照してください。追加のキャッシュ更新属性は、その Starfire ドメインから情報を収集した日時を示します。

センタープレーンボード

次の表は Starfire プラットフォーム構成リーダーのセンタープレーンボード関連の属性をまとめています (表 6-21)。

表 6-21 Starfire プラットフォーム構成リーダーのセンタープレーンボード属性

属性	規則 (ある場合)	説明
名前		centerplane(<i>n</i>)。 <i>n</i> はセンタープレーンボード番号
センタープレーン ボード		センタープレーンボード番号 (0 または 1)
温度 0 (°C)	e10ktemp	(グラフ表示可能) センタープレーン上のセンサー 0 の位置の温度
温度 1 (°C)	e10ktemp	(グラフ表示可能) センタープレーン上のセンサー 1 の位置の温度
温度 2 (°C)	e10ktemp	(グラフ表示可能) センタープレーン上のセンサー 2 の位置の温度
温度 3 (°C)	e10ktemp	(グラフ表示可能) センタープレーン上のセンサー 3 の位置の温度
温度 4 (°C)	e10ktemp	(グラフ表示可能) センタープレーン上のセンサー 4 の位置の温度
温度 5 (°C)	e10ktemp	(グラフ表示可能) センタープレーン上のセンサー 5 の位置の温度
温度 6 (°C)	e10ktemp	(グラフ表示可能) センタープレーン上のセンサー 6 の位置の温度
温度 7 (°C)	e10ktemp	(グラフ表示可能) センタープレーン上のセンサー 7 の位置の温度
温度 8 (°C)	e10ktemp	(グラフ表示可能) センタープレーン上のセンサー 8 の位置の温度
温度 9 (°C)	e10ktemp	(グラフ表示可能) センタープレーン上のセンサー 9 の位置の温度
現場交換可能		はい

センタープレーンサポートボード

次の表は Starfire プラットフォーム構成リーダーのセンタープレーンサポートボード関連の属性をまとめています (表 6-22)。

表 6-22 Starfire プラットフォーム構成リーダーのセンタープレーンサポートボード属性

属性	規則 (ある場合)	説明
名前		centerplane-support-board(<i>n</i>)。 <i>n</i> はセンタープレーンサポートボード番号
センタープレーンサポートボード		センタープレーンサポートボード番号 (0 または 1)
電源の状態	e10kpowr	ボードの電源のオン / オフ状態
DC 3.3V 1 温度 (°C)	e10ktemp	(グラフ表示可能) 3.3 VDC 電源装置の温度 (センサー 1)
DC 3.3V 2 温度 (°C)	e10ktemp	(グラフ表示可能) 3.3 VDC 電源装置の温度 (センサー 2)
DC 3.3 V/HK 電圧 (V)	e10kvolt	(グラフ表示可能) ボードの DC +1.5V 電源の電圧レベル
DC 3.3 V/HK 電圧 (V)	e10kvolt	(グラフ表示可能) ボードの DC 3.3V ハウスキーピング電源の電圧レベル
DC 3.3 V 電圧 (V)	e10kvolt	(グラフ表示可能) ボードの DC +1.5V 電源の電圧レベル
現場交換可能		はい

制御ボード

次の表は Starfire プラットフォーム構成リーダーの制御ボード関連の属性をまとめています (表 6-23)。

表 6-23 Starfire プラットフォーム構成リーダーの制御ボード属性

属性	規則 (ある場合)	説明
名前		system-board(<i>n</i>)。 <i>n</i> は制御ボード番号
制御ボード		制御ボード番号 (0 ~ 1)
電源の状態	e10kpowr	ボードの電源のオン / オフ状態

表 6-23 Starfire プラットフォーム構成リーダーの制御ボード属性 (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
制御ボードホスト名		この制御ボードの IP アドレスに関連付けられているホスト名
DC 5V 温度 (°C)	e10ktemp	(グラフ表示可能) ボードの DC 5 V 電源装置の温度
DC 5V 周辺装置温度 (°C)	e10ktemp	(グラフ表示可能) ボードの DC 5 V 周辺装置電源装置の温度
DC 5V ファン温度 (°C)	e10ktemp	(グラフ表示可能) ボードの DC 5 V ファン電源装置の温度
センサー 0 温度 (°C)	e10ktemp	(グラフ表示可能) センサー 0 の位置の周囲温度
センサー 1 温度 (°C)	e10ktemp	(グラフ表示可能) センサー 1 の位置の周囲温度
センサー 2 温度 (°C)	e10ktemp	(グラフ表示可能) センサー 2 の位置の周囲温度
DC 3.3 V/HK 電圧 (V)	e10kvolt	(グラフ表示可能) ボードの DC +1.5V 電源の電圧レベル
DC 3.3 V/HK 電圧 (V)	e10kvolt	(グラフ表示可能) ボードの DC +1.5V 電源の電圧レベル
DC 3.3 V/HK 電圧 (V)	e10kvolt	(グラフ表示可能) ボードの DC 3.3V ハウスキーピング電源の電圧レベル
DC 5V 周辺装置電圧 (V)	e10kvolt	(グラフ表示可能) ボードの DC 5V 周辺装置電源の電圧レベル
DC 5V ファン電圧 (V)	e10kvolt	(グラフ表示可能) ボードのファン用 5 V 電源の電圧レベル
現場交換可能		はい

ファントレー

次の表は Starfire プラットフォーム構成リーダーのファントレー関連の属性をまとめています (表 6-24)。

表 6-24 Starfire プラットフォーム構成リーダーのファントレー属性

属性	規則 (ある場合)	説明
名前		fantray(<i>n</i>)。 <i>n</i> はファントレー番号
ファントレー		ファントレー番号

表 6-24 Starfire プラットフォーム構成リーダーのファントレー属性 (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
電源の状態	e10kpowr	ファン電源のオン / オフ状態
現場交換可能		はい
ホットプラグ		はい

ファン

次の表は Starfire プラットフォーム構成リーダーのファン関連の属性をまとめています (表 6-25)。

表 6-25 Starfire プラットフォーム構成リーダーのファン属性

属性	規則 (ある場合)	説明
名前		fantray(<i>n</i>)。 <i>n</i> はファントレー番号
ファントレー		ファントレー番号 (0 ~ 15)
ファン		ファン番号 (0 または 1)
状態	e10kpowr	ファン用電源のオン / オフ状態
速度		ファン回転速度。Nominal (低速) または Fast (高速)

48 V 電源装置

次の表は Starfire プラットフォーム構成リーダーの 48 V 電源装置関連の属性を示します (表 6-26)。

表 6-26 Starfire プラットフォーム構成リーダーの電源装置属性

属性	規則 (ある場合)	説明
名前		bulkpower(<i>n</i>)。 <i>n</i> は電源装置番号
電源装置		電源装置番号 (0 ~ 15)
状態	e10kpowr	電源の状態 (Ok または Failed)
現場交換可能		はい
ホットプラグ		はい

AC 電源入力モジュール

次の表は Starfire プラットフォーム構成リーダーの AC 電源入力モジュール関連の属性をまとめています (表 6-27)。

表 6-27 Starfire プラットフォーム構成リーダーの AC 電源入力モジュール属性

属性	規則 (ある場合)	説明
名前		acpower(n)。 n は AC 電源入力モジュール番号
AC 電源入力モジュール		AC 電源入力モジュール番号 (0 ~ 7)

入出力キャビネットテーブル

次の表は Starfire プラットフォーム構成リーダーの入出力キャビネットテーブル関連の属性をまとめています (表 6-28)。

表 6-28 Starfire プラットフォーム構成リーダーの入出力キャビネットテーブル属性

属性	規則 (ある場合)	説明
名前		io(n)。 n は入出力キャビネット番号
入出力キャビネット		入出力キャビネット番号
電源の状態	e10kpowr	電源のオン / オフ状態
現場交換可能		はい

SSP 情報

「SSP 情報」テーブルは、Starfire プラットフォームの「詳細」ウィンドウの「ブラウザ」タブからのみ表示できます。SSP 情報テーブルは、物理および論理表示のハードウェアツリーには含まれません。

次の表は Starfire プラットフォーム構成リーダーの SSP 情報関連の属性をまとめています (表 6-29)。

表 6-29 Starfire プラットフォーム構成リーダーの SSP 情報属性

属性	規則 (ある場合)	説明
SSP ホスト名		このプラットフォームオブジェクトに対応する SSP のホスト名
SSP の状態		このプラットフォームオブジェクトに関連付けられている SSP の状態 (Main または Spare)。SSP の状態が Spare の場合、このプラットフォームオブジェクトからプラットフォーム情報を得ることはできません。プラットフォーム情報を得るには、メイン SSP に関連付けられているプラットフォームオブジェクトを使用します。
snmpd 最終更新		SSP snmpd プロセスによる SNMP 処理が前回正常終了した日時
snmpd 接続エラー	rCompare	(グラフ表示可能) SSP snmpd プラットフォームのデータにアクセスするときに連続して発生した SNMP 通信エラー数。このエラーは、SSP の活動の増加による SNMP の時間切れなどの一時的な問題が原因のこともあれば、snmpd の SNMP 通信の持続的な問題が原因のこともあります。
snmpd トラップ受信		SSP snmpd トラップを受信した場合は yes、トラップを受信していない場合は --。値 -- は、必ずしも SSP snmpd トラップ転送構成内のエラーを意味しません。
代替 SSP		このプラットフォーム用の代替 SSP のホスト名
SSP ソフトウェアバージョン		SSP ソフトウェアのバージョン

Starfire ドメイン

「Starfire ドメイン」テーブルは、Starfire プラットフォームの「詳細」ウィンドウの「ブラウザ」タブからのみ表示できます。SSP 情報テーブルは、物理および論理表示のハードウェアツリーには含まれません。

次の表は Starfire プラットフォーム構成リーダーの Starfire ドメイン関連の属性をまとめています (表 6-30)。

表 6-30 Starfire プラットフォーム構成リーダーの Starfire ドメイン属性

属性	規則 (ある場合)	説明
ドメイン名		Starfire ドメインのホスト名
IP アドレス		このドメインの IP アドレス
Arbstop 数	e10kdtrp	(グラフ表示可能) このドメインについて検出された arbstops 数
Recordstop 数	e10kdtrp	(グラフ表示可能) このドメインについて検出された recordstop イベント数
Watchdog 数	e10kdtrp	(グラフ表示可能) このドメインについて検出された watchdog イベント数
総システムボード数		この Starfire ドメインに割り当てられているシステムボード数
システムボード一覧		この Starfire ドメインに割り当てられているシステムボードのリスト
構成システムボードリスト		この Starfire ドメイン用に、POST によって構成されているシステムボードのリスト
ブートプロセッサ		この Starfire ドメイン用のブートプロセッサ番号。 -1 の場合、この Starfire ドメインは構成されていないか、起動されていません。

エージェントの状態

エージェント状態情報は、Starfire プラットフォームの「詳細」ウィンドウの「ブラウザ」タブからのみ表示できます。エージェント状態情報は、物理および論理表示のハードウェアツリーには含まれません。

Starfire プラットフォーム構成リーダーモジュールは、Starfire ドメインの Sun Management Center エージェントと通信して、Starfire ドメインの Starfire コンポジットトポロジオブジェクトタイプ (Agent Host または ICMP Ping) を確認し、Starfire ドメインに存在するシステムボードの構成情報を収集します。このエージェント状態情報は主に診断目的に提供され、Starfire Domain Ports 属性とエージェント状態テーブル属性から構成されます。

次の表は Starfire プラットフォーム構成リーダーの Starfire ドメインポート関連の属性をまとめています (表 6-31)。

表 6-31 Starfire プラットフォーム構成リーダーの Starfire ドメインポート属性

属性	規則 (ある場合)	説明
Starfire ドメインポート		プラットフォームの Starfire ドメイン用の Sun Management Center エージェントネットワークポートのリスト。このリストは、Starfire プラットフォーム用追加コンポーネントの設定で指定します。

次の表はエージェント状態テーブルの属性をまとめています (表 6-32)。

表 6-32 エージェント状態テーブルの属性

属性	規則 (ある場合)	説明
ホスト名		Starfire ドメインのホスト名
エージェントポート		Starfire ドメインの Sun Management Center エージェントに割り当てられているネットワークポート。このポートは、エージェントにメッセージを送信し、応答を得ることによって求められます。この属性の値が -- の場合は、エージェントとの通信が確立されなかったことを示します。
状態		エージェントとの通信の現在の状態 (エージェントとの通信が確立された場合)
SNMP 接続エラー	rCompare	(グラフ表示可能) Starfire ドメイン構成リーダーのデータにアクセスするときに連続して発生した SNMP 通信エラー数。このエラーは、システムの活動の増加による SNMP の時間切れなどの一時的な問題が原因のこともあれば、SNMP 通信の持続的な問題が原因のこともあります。
最終更新時間		前回、Starfire ドメインエージェントとの通信に成功した日時

状態属性は、表 6-33 に示す値をとります。

表 6-33 状態属性の値

値	説明
--	エージェントの通信が確立されていない。
ok	Sun Management Center エージェントが存在する。エラーなし。
Host Not Responding	Starfire ドメインが停止しているか、応答しない。
Agent Not Responding	Starfire ドメインは動作しているが、エージェントが存在していないか、応答しない。
Module Not Responding	Starfire ドメインが動作していて、エージェントも動作しているが、要求されたモジュールが読み込まれていないか、応答しない。

検出オブジェクト

「検出オブジェクト」テーブルは、Starfire プラットフォームの「詳細」ウィンドウの「ブラウザ」タブからのみ表示できます。エージェント状態情報は、物理および論理表示のハードウェアツリーには含まれません。

検出オブジェクトテーブルは、検出マネージャーや「トポロジオブジェクトの作成」GUI が Starfire 複合オブジェクトを作成するときに使用する情報を提供します。この情報は、主として診断目的に提供され、Sun Management Center ソフトウェアのユーザーには直接関係のない情報が含まれます。この情報には、テーブル識別子 (マジックナンバー) の後に、Starfire 複合オブジェクトの一部として作成された各トポロジオブジェクトに関する情報が続きます。マジックナンバー値の 53444f54 は、その後のテーブルが有効な検出オブジェクトテーブルであることを示します。

次の表に Starfire プラットフォーム構成リーダーの検出オブジェクトテーブルの属性を示します (表 6-34)。

表 6-34 Starfire プラットフォーム構成リーダーの検出オブジェクトテーブル属性

属性	規則 (ある場合)	説明
トポロジ ID		符号化されたトポロジ ID
トポロジ親		このオブジェクトの親のトポロジ ID
検出タイプ		符号化された検出タイプ
IP アドレス		このトポロジオブジェクトの IP アドレス
エージェントポート		このトポロジオブジェクト用のポート番号

表 6-34 Starfire プラットフォーム構成リーダーの
検出オブジェクトテーブル属性 (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
ファミリタイプ		トポロジオブジェクトのファミリタイプ
ラベル		Sun Management Center トポロジに表示されるオブジェクトラベル
説明		オブジェクトの説明 (ある場合)

注 - 「エージェントポート」属性の値の -1 は、そのオブジェクトがプラットフォームグループオブジェクトであることを示します。

モデル再表示

「モデル再表示」テーブルの 2 つの属性は、Starfire プラットフォーム構成リーダーモジュールを再表示する方法を示します。ブラウザを使用して属性を選択して、その属性を再表示できます。再表示を実行すると、選択された情報に対する再表示サイクルが開始されます。

次の表は Starfire プラットフォーム構成リーダーのモデル再表示関連の属性をまとめています (表 6-35)。

表 6-35 Starfire プラットフォーム構成リーダーのモデル再表示属性

属性	規則 (ある場合)	説明
SSP モデル再表示		SSP モデルの再表示回数
Starfire ドメイン モデル再表示		Starfire ドメインモデルの再表示回数

SSP 状態モジュール属性

SSP 状態モジュールは、SSP がメインまたは予備のどちらの状態であるかを監視します。このモジュールは、Starfire プラットフォーム用追加コンポーネントの設定時に、SSP エージェントに自動的に読み込まれるように設定され、「ブラウザ」ローカルアプリケーションアイコンの下に表示されます。

次の表は SSP 状態モジュールの属性をまとめています (表 6-36)。

表 6-36 SSP 状態モジュール属性

属性	規則 (ある場合)	説明
SSP の状態	rSpStatus	SSP の状態 (メインまたは予備)
SSP ホスト名		SSP のホスト名

SSP の状態が「予備」の場合は、rSpStatus 規則によって使用不可アラームになります。

検出テーブルモジュール

検出テーブルモジュールは、「検出マネージャー」および「トポロジオブジェクト作成」GUI に複合オブジェクトの作成に必要な情報を提供します。このモジュールは、Starfire プラットフォーム用追加コンポーネントの設定時に、SSP エージェントに自動的に読み込まれるように設定され、「ブラウザ」ローカルアプリケーションアイコンの下に表示されます。

この情報は主として診断目的に提供され、Sun Management Center ソフトウェアのユーザーには直接関係のない情報が含まれます。この情報には、テーブル識別子 (マジックナンバー) の後に、システムによって管理される各コンポジットオブジェクトに関する情報からなるテーブルが続きます (表 6-37)。検出テーブルのマジック番号は 534454 です。

表 6-37 検出テーブル

属性	規則 (ある場合)	説明
IP アドレス		複合オブジェクト情報テーブルが存在する IP アドレス
ポート		その IP アドレスで使用するネットワークポート
OID		その IP アドレスで使用する SNMP OID
方法		テーブルの解読方法を示すフラグ
バージョン		テーブルの解読方法を示すバージョン
ファミリー		作成するオブジェクトのタイプ
オブジェクト:		オブジェクトラベル

Starfire 構成リーダーの規則

主要 Sun Management Center モジュールの全 Sun Management Center 規則は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』の付録 D に記載されています。この節では、Starfire 用追加コンポーネントに含まれる構成リーダーモジュールの規則について説明します。

POST 状態の規則 (e10kpost)

電源投入時セルフテスト (POST) は、Starfire ドメインを起動するたびに実行されます。表 6-38 は、ドメインの構成要素の POST 状態属性がとりうる値をまとめています。値によって、表に示すようなアラームが生成されます。

表 6-38 POST 状態規則

POST 状態	アラームレベル	意味
Good		POST によって構成要素がテストされ、Starfire ドメイン構成に組み込まれました。
Failed	重大	POST による構成要素のテストに失敗しました。テストに失敗した構成要素の下位要素が構成されたかどうかは不明です。
Unused		物理的に存在しないか、POST によって構成されなかった構成要素が他にあるため、この構成要素は Starfire ドメイン構成に必要ありません。
Blacklisted	注意	POST による構成中に構成要素がブラックリストに登録されました。ブラックリストに登録された構成要素が存在するかどうかは不明です。
Redlisted	注意	POST による構成中に構成要素がレッドリストに登録されました。レッドリストに登録された構成要素が存在するかどうかは不明です。

プロセッサ状態規則 (e10kproc)

プロセッサ状態規則は、プロセッサの状態がオフラインの場合に注意アラームを生成します。

テープ警告規則 (e10ktwrn)

テープ警告規則は、`/var/adm/messages` から検出されたテープ警告数が特定のしきい値を超えた場合にアラームを生成します。アラームが生成されたテープデバイスのテープ警告属性値は、アラームが確認済みにされると、ゼロにリセットされます。この属性値は、Sun Management Center エージェントが再起動されたときにも消去されます。

警告の正確な原因は、`/var/adm/messages` ファイルで確認してください。

この規則のデフォルトのしきい値は、表 6-39 に示すとおりです。これらのアラームしきい値を変更する方法については、103 ページの「構成リーダーの規則しきい値の変更」を参照してください。

表 6-39 テープ警告規則のしきい値

アラームレベル	警告数
注意	5

ディスク警告規則 (e10kdwrn)

ディスク警告規則は、`/var/adm/messages` から検出されたディスク警告数が特定のしきい値を超えた場合にアラームを生成します。アラームが生成されたディスクのディスク警告属性値は、アラームが確認済みにされると、ゼロにリセットされます。この属性値は、Sun Management Center エージェントが再起動されたときにも消去されます。

警告の正確な原因は、`/var/adm/messages` ファイルで確認してください。

この規則のデフォルトのしきい値は、表 6-40 に示すとおりです。これらのアラームしきい値を変更する方法については、103 ページの「構成リーダーの規則しきい値の変更」を参照してください。

表 6-40 ディスク警告規則のしきい値

アラームレベル	警告数
警告	20
注意	7

メモリー ECC エラー規則 (e10kmerr)

メモリー ECC エラー規則は、`/var/adm/messages` から検出された ECC エラー数が特定のしきい値を超えた場合にアラームを生成します。

アラームが生成された DIMM の ECC エラー属性値は、Starfire ドメインの「詳細」ウィンドウでアラームが確認済みにされると、ゼロにリセットされます。この属性値はまた、Sun Management Center エージェントが再起動されたときにも消去されません。

注 この属性値は、Starfire プラットフォームの「詳細」ウィンドウからアラームが確認済みにされても消去されません。

ECC エラーの原因は必ずしもハードウェア障害ではありません。その多くは、一時的なメモリーエラーです。また、ECC エラーで示される構成要素は問題の原因ではなく、問題が検出された構成要素であるだけのこともあります。報告された DIMM ECC エラーが構成要素の障害であるかどうかは、Starfire ドメインの `/var/adm/messages` に報告されている ECC エラーの原因で確認してください。

この規則のデフォルトのしきい値は、表 6-41 に示すとおりです。これらのアラームしきい値を変更する方法については、103 ページの「構成リーダーの規則しきい値の変更」を参照してください。

表 6-41 メモリー ECC エラー規則のしきい値

アラームレベル	ECC エラー数
注意	3

Starfire ドメイントラップ規則 (e10kdtrp)

Starfire ドメイントラップ規則は、該当するタイプのドメイントラップが発生した場合にアラームを生成します。Arbstop および Watchdog トラップの場合は、重大アラームが生成されます。Recordstop トラップに対しては、注意アラームが生成されます。トラップ数の属性値は、アラームが確認済みにされるとゼロにリセットされます。この属性値は、Sun Management Center エージェントが再起動されたときにも消去されます。

温度規則 (e10ktemp)

温度規則は、各種のハードウェア構成要素の温度または室内の周囲温度を監視します。ASIC、プロセッサ、電源装置の場合は、温度が表 6-42 に示すしきい値を超えたときにアラームが生成されます。

表 6-42 温度規則のレベル (摂氏)

構成要素	注意	警告	重大
ASIC	80.0 xC	85.0 xC	90.0 xC
プロセッサ	80.0 xC	85.0 xC	90.0 xC
電源装置	80.0 xC	85.0 xC	90.0 xC

周囲温度が 10.0°Cを下回るか、35.0°Cを上回ると、重大アラームが生成されます。

温度調整されていないボードの場合は、-1 の ASIC 温度が報告され、重大アラームが生成されます。この問題が発生した場合は、購入先に連絡してください。

プロセッサなどの構成要素が存在しない場合、温度は 0°Cと報告されます。

注 – Starfire プラットフォーム (SSP) の設定では、SSP の `ssp_resource` ファイルが読み取られて、表 6-42 に示す規則のしきい値が決定されます。この表に示す温度しきい値は、システム構成によって異なることがあります。`ssp_resource` ファイルのしきい値を変更した場合は、Starfire プラットフォーム (SSP) のセットアップスクリプトを再実行してください。

注 – 「属性エディタ」ウィンドウから、温度アラームのしきい値を変更することはできません。

電源規則 (e10kpowr)

電源規則は電源の状態を監視し、次の場合にアラームを生成します (表 6-43)。

表 6-43 電源規則のしきい値

電源の状態	アラームレベル
オフ	注意
失敗	重大

電圧規則 (e10kvolt)

電圧規則は電圧レベルを監視し、電圧が次の範囲外になった場合にアラームを生成します。

表 6-44 システムボードに対する電圧規則のレベル

システムボードの電圧	最小	最大
DC 3.3V	3.130	3.470
DC 3.3V/HK	3.130	3.470
DC 5V	4.750	5.250
DC 5V/HK	4.750	5.250
主 VDC	2.522	2.678
主 VDC (400 MHz プロセッサ)	1.843	1.957

表 6-45 制御ボードに対する電圧規則のレベル

制御ボードの電圧	最小	最大
DC 3.3V/HK	3.130	3.630
DC 5V	4.750	5.250
DC 5V/HK	4.750	5.250
DC 5V 周辺装置	4.949	5.460
DC 5V ファン	4.850	5.350

表 6-46 センタープレーンサポートボードに対する電圧規則のレベル

センタープレーンサポート ボードの電圧	最小	最大
DC 3.3V	3.130	3.470
DC 3.3V/HK	3.130	3.630
DC 5V/HK	4.750	5.250

注 – Starfire プラットフォーム (SSP) のセットアップでは、SSP の `ssp_resource` ファイルが読み取られて、表 6-44、表 6-45、表 6-46 に示す規則のしきい値が決定されます。この表に示すしきい値は、システム構成によって異なることがあります。`ssp_resource` ファイルのしきい値を変更した場合は、Starfire プラットフォーム (SSP) 設定スクリプトを再実行してください。

注 – 「属性エディタ」ウィンドウから、電圧レベルを変更することはできません。

比較規則 (rCompare)

比較規則は、大なりや小なりなどの、一般的ないろいろな比較を行う属性を監視します。ブラウザで属性を表示したときに、Sun Management Center コンソールの「属性エディタ」を使用して、各属性の規則しきい値を確認したり、編集したりできます。これらのアラームしきい値を変更する方法については、103 ページの「構成リーダーの規則しきい値の変更」を参照してください。

構成リーダーの規則しきい値の変更

各規則に表示されるしきい値は、その規則のデフォルトのしきい値です。テーブルに属性が含まれている場合は、そのテーブルのすべての行にしきい値が適用されます。103 ページの「規則パラメタを編集する」で説明しているように、Sun Management Center のコンソールを使用して、属性の行インスタンスのしきい値を変更することができます。テーブル内のすべての行のデフォルトのしきい値を変更する場合は、106 ページの「デフォルトの規則しきい値を変更する」で説明しているように、構成ファイルを編集します。

▼ 規則パラメタを編集する

Sun Management Center コンソールの「属性エディタ」を使用して、属性の特定のインスタンスの規則しきい値を変更することができます。

1. ホストの「詳細」コンソールウィンドウを表示します。
2. ブラウザを使用して、規則しきい値を変更する属性を選択します。
3. 属性エディタを開きます。

4. 「アラーム」タブをクリックします。
5. しきい値を変更して、保存します。

属性エディタを使用して、アラームしきい値を変更する具体的な手順については、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』の第 10 章「属性エディタの使用」を参照してください。

デフォルトの規則しきい値の変更

テーブル内のすべての行のデフォルトの規則しきい値を変更するには、適切な構成ファイルのデフォルトのしきい値を変更する必要があります。規則しきい値はすべて、`alarmlimit` 変数で設定します。次の例では、`e10kmerr-info alarmlimit` 変数を 3 に設定しています。

```
alarmlimit:e10kmerr-info      =3
```

`rCompare` などの汎用の規則の場合は、その規則を適用する属性のコンテキスト内で `alarmlimit` 変数を指定する必要があります。次の例では、`status.snmpErrorCount` がそうしたコンテキストです。

```
status = {
  snmpErrorCount = {
    alarmlimit:info-gt =
    alarmlimit:warning-gt = .
    alarmlimit:error-gt = .5
  }
}
```

注 – アラームレベルにアラームしきい値が指定されていない場合、Sun Management Center ソフトウェアはそのアラームレベルに関する検査を行いません。

デフォルト値の入った構成ファイルは、`/opt/SUNWsymon/modules/cfg` 内に存在します。Starfire 用構成ファイルでは、この後の表に示す `alarmlimit` 変数の設定を変更することができます。

注 – `/opt` 以外のディレクトリに Sun Management Center ソフトウェアをインストールしている場合は、そのディレクトリを指定してください。

Starfire ドメイン構成リーダーモジュールの alarmlimit 変数

表 6-47 は、Config-Reader4u1D-ruleinit-d.x 構成ファイル内の各アラームレベルのしきい値の変更に使用できる変数をまとめています。

表 6-47 Starfire ドメイン構成リーダーモジュールの alarmlimit 変数

規則	注意	警告	重大
e10kdwrn	e10kdwrn-info	e10kdwrn-warning	e10kdwrn-error
e10kmerr	e10kmerr-info	e10kmerr-warning	e10kmerr-error
e10ktwrn	e10ktwrn-info	e10ktwrn-warning	e10ktwrn-error

Starfire プラットフォーム構成リーダーモジュールの alarmlimit 変数

表 6-48 は、Config-Reader4u1D-ruleinit-d.x 構成ファイル内の各アラームレベルのしきい値の変更に使用できる変数をまとめています。

表 6-48 Starfire ドメイン構成リーダーモジュールの alarmlimit 変数

規則	注意	警告	重大
e10kmerr	e10kmerr-info	e10kmerr-warning	e10kmerr-error

注 - e10kmerr 規則のしきい値は、Starfire ドメインと Starfire プラットフォームの構成リーダーモジュール間で同じである必要があります。

表 6-49 は、Config-Reader4u1P-d.def 構成ファイル内の各アラームレベルのしきい値の変更を使用する rCompare alarmlimit 変数をまとめています。

表 6-49 Starfire プラットフォーム構成リーダーモジュールの rCompare alarmlimit 変数

フォルダ / 属性名	属性コンテキスト	注意	警告	重大
SSP 情報 / snmpd 通信エラー	status.snmpErrorCount	info-gt	warning-gt	error-gt
Starfire ドメイン /Arbstop 数	domain.dom.domainEntry.arbstop	info-gt()	warning-gt()	error-gt()
Starfire ドメイン /Recordstop 数	domain.dom.domainEntry.recordstop	info-gt()	warning-gt()	error-gt()
Starfire ドメイン /Watchdog 数	domain.dom.domainEntry.watchdog	info-gt()	warning-gt()	error-gt()
Starfire Sun Management Center エージェント状態 /SNMP 通信エラー	agent.agentTable.agentTableEntry.snmpErrorCount	info-gt()	warning-gt()	error-gt()

▼ デフォルトの規則しきい値を変更する

1. アラームしきい値を変更するホストにスーパーユーザーでログインします。
2. 変更する構成ファイルが /var/opt/SUNWsymon/cfg ディレクトリ内に存在しない場合は、次を入力します。

```
# cd /var/opt/SUNWsymon/cfg
# cp /opt/SUNWsymon/modules/cfg/ 構成ファイル .
# chmod 644 構成ファイル
```

注 - /opt 以外のディレクトリに Sun Management Center ソフトウェアをインストールしている場合は、コピー元の構成ファイルのパスにそのディレクトリを指定してください。Sun Management Center ソフトウェアのインストール場所に関係なく、/var/opt 部分は同じです。

3. 104 ページの「デフォルトの規則しきい値の変更」の説明に従って、構成ファイルを編集し、アラームしきい値を変更します。
4. 次の規則に従って、しきい値を変更します。

- アラームしきい値には、符号なし整数を使用します。
 - アラームが重大であるほど、アラームしきい値を大きくします。「重大」のしきい値は「警告」のしきい値より大きくし、「警告」のしきい値は「注意」のしきい値より大きくします。
5. 編集を終えたら、ファイルを保存します。
 6. 変更を有効にするには、表 6-50 に示すコマンドを使用して、そのモジュールが読み込まれる Sun Management Center エージェントを停止し、再起動します。

表 6-50 Sun Management Center エージェントを停止、再起動するためのコマンド

モジュール名	エージェント停止コマンド	エージェント起動コマンド
構成リーダー (Starfire ドメイン)	<code>/opt/SUNWsymon/sbin/es-stop -a</code>	<code>/opt/SUNWsymon/sbin/es-start -a</code>
構成リーダー (Starfire プラットフォーム)	<code>/opt/SUNWsymon/sbin/es-stop -l</code>	<code>/opt/SUNWsymon/sbin/es-start -l</code>

Sun Management Center のログファイル

Sun Management Center のエージェントおよびプラットフォームエージェントは、下記の表に示すログファイルに書き込みを行います。これらログファイルの表示方法については、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』を参照してください。Starfire 用モジュールの実行中に問題が発生した場合、これらのファイルに診断情報が含まれていることがあります。これらログファイルはすべて、`/var/opt/SUNWsymon/log` ディレクトリにあります。

表 6-51 Sun Management Center のログファイル

ファイル	書き込みを行うエージェント
<code>agent.log</code>	Starfire ドメインと SSP エージェント
<code>configd4u1D.log</code>	Starfire ドメインのエージェント。Config-Reader4u1D モジュールデータの収集に関する情報が含まれます。
<code>platform.log</code>	Starfire プラットフォームのエージェント。Config-Reader4u1P モジュールデータの収集に関する情報が含まれます。

